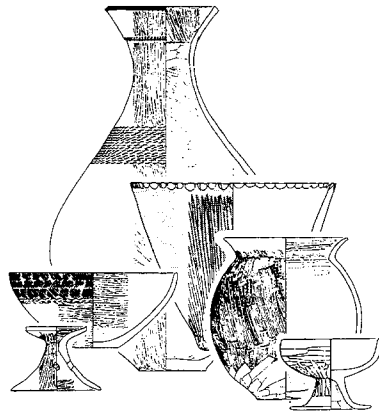


市原市文化財センター年報

平成元年度



叶台遺跡出土土器

財団法人 市原市文化財センター

序

昭和62年度に発見された「王賜」銘鉄剣は、市原市の埋蔵文化財を、市民のみならず広く国内に印象づけることとなりました。「王賜」銘鉄剣を出土した稲荷台1号墳を含む国分寺台区画整理にともなう発掘調査は、昭和63年度をもって終了しましたが、本年、平成6年度には、報告書の刊行へむけての整理作業も一部開始されることとなりました。全国的にもまれにみる規模と内容、そして成果の公開によせる熱い期待を前にして、責任の重大さに思いを新たにいたしているところであります。

さて、当センターも、昭和57年4月1日の設立以来、本年度をもって満12年を経過することとなりました。この間、平成2年度には、完成した市原市埋蔵文化財調査センターに拠点を移し、施設とともに、組織、人材の充実を図るなかで、事業も順調に実施してまいりました。これは千葉県教育委員会、市原市教育委員会をはじめとする関係各位、そして市民みなさまのご支援の賜物と感謝いたしております。

平成元年度には、22遺跡の発掘調査を実施いたしました。このうち、上総国分尼寺跡の発掘調査では、前年度の中門跡、金堂跡等に引き続き、鐘楼跡、経楼跡の発掘調査がおこなわれ、その成果は、現在進行している史跡整備の基礎資料として活用が図られております。また、所在がいまだに明らかではない、上総国府推定地の確認調査も、この年度より開始されました。

これらの最新成果につきましては、パンフレット「私たちの文化財」をはじめ、恒例となりました、遺跡見学会、遺跡発表会をとおして発表いたしておりますが、遺跡見学会、遺跡発表会には、例年同様、多くの方々の参加を得ることができました。

今後とも、発掘調査と、その公開、普及、活用を事業の両輪として、さらなる飛躍に努めてまいりたいと思います。益々のご指導とご協力を、心よりお願い申し上げます。

平成6年9月

財団法人市原市文化財センター
理事長 佐野年男

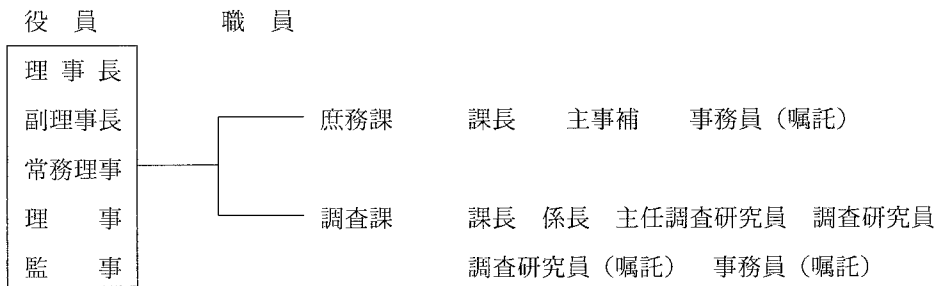
目 次

序	
I 平成元年度の機構	1
II 平成元年度事業概要	2
III 平成元年度調査概要	6
1. 能満分区遺跡群	8
2. 中高根南名山遺跡	10
3. 奈良大仏台遺跡	12
4. 叶台遺跡	15
5. 花和田遺跡（第2次調査）	19
6. 新生荻原野遺跡A区・一本松塚	21
7. 新生荻原野遺跡B・C区（確認調査）	27
8. 新生荻原野遺跡C区（本調査）	29
9. 史跡 上総国分尼寺跡	31
10. 村上遺跡群	33
11. 山倉天王・堂谷貝塚	34
12. 能満分区貝塚	37
（付）重要遺跡（貝塚）の測量・確認調査	40
13. 喜多徒士橋遺跡（1次）	42
14. 喜多徒士橋遺跡（2次）	43
15. 姉崎上野合遺跡	45
16. 潤井戸上横峰遺跡	47
17. 椎津茶ノ木遺跡	48
18. 史跡 上総国分寺跡	49
19. 史跡 上総国分寺跡（薬師堂）	53
20. 大厩浅間様古墳	53
21. 道生堀遺跡	54
22. 青柳塚群	54
IV 平成元年度受贈図書一覧	55

I 平成元年度の機構

平成元年度の市原市文化財センターの機構は、役員・職員で構成されている。役員は、寄附行為の定めにより、理事長、副理事長、常務理事、監事をもって構成され、職員は、事務職員5名（内派遣職員1名）、技術職員12名（内派遣職員1名）であり、その組織及び氏名などは下表のとおりである。

(1) 組織



(2) 役員

職名	役職名	氏名	職名	役職名	氏名
理事長	教育委員会教育長	星野一郎	理事	市企画部長	根本正夫
副教育長	教育委員会社会教育部長	大野義規	理事	市総務部長	宮崎芳雄
常務理事	専任	須田昇三	理事	市都市部長	地引希壹
理事	早稲田大学名誉教授	滝口 宏	理事	市財政課長	安藤隆一
理事	和洋女子大学教授	寺村光晴	監事	市会計課長	佐久間章
理事	姉崎神社宮司	海上信久	監事	教育委員会総務課長	小宮 仁

(3) 職員

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名
庶務課	課長	田丸 萬 富	調査課	調査研究員	大村 直
庶務課	主事補	大鐘 光 江	調査課	調査研究員	近藤 敏
庶務課	事務員（嘱託）	秋田 晴 美	調査課	調査研究員	高橋 康 男
庶務課	事務員（嘱託）	元.9.30まで	調査課	調査研究員	木 對 和 紀
庶務課	事務員（嘱託）	石渡あゆみ	調査課	調査研究員	忍澤成視
調査課	課長	矢戸 三 男	調査課	調査研究員	田中 茂 良
調査課	係長	宮本 敬 一	調査課	調査研究員（嘱託）	田中新史
調査課	主任調査研究員	田中 清 美	調査課	調査研究員（嘱託）	半田 堅 三
調査課	主任調査研究員	浅利 幸 一	調査課	事務員（嘱託）	高浦 貞 子

II 平成元年度事業概要

(1) 理事会の開催

- ① 第1回理事会 平成元年5月30日
 議案第1号 昭和63事業年度事業報告について
 議案第2号 昭和63事業年度収入支出決算について
- ② 第2回理事会 平成元年11月20日
 議案第1号 平成元事業年度事業計画の変更について
 議案第2号 平成元事業年度補正予算(第1号)について
- ③ 第3回理事会 平成2年3月28日
 議案第1号 平成元事業年度事業計画の変更について
 議案第2号 平成元事業年度補正予算(第2号)について
 議案第3号 平成2事業年度事業計画について
 議案第4号 平成2事業年度収入支出予算について
 議案第5号 寄附行為の一部改正について

(2) 会計監査

昭和63事業年度の会計監査は、平成元年5月26日財団法人市原市文化財センター事務所において、佐久間章、小宮仁両監事により実施された。

(3) 平成元事業年度受託事業

(単位：円)

番号	継続 又は 新規	事業名	受託者	遺跡名	種別	面積・数量	事業内容	契約年月日	終了年月日	受託金額
1	新規	市道166号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	能満分区 遺跡群	散布地	2,000㎡	本調査	平成元年9月20日	平成2年3月31日	13,701,060
2	継続	市道6018号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	南名山	散布地	1,060㎡	本調査	平成元年9月29日	平成2年3月31日	7,532,390
3	継続	市道119号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	奈良 大仏台	集落跡	8,000㎡	本調査	平成元年4月1日	平成2年3月31日	19,021,000
4	継続	市道161号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	新畑台	集落跡	1,700㎡	本調査	平成元年7月31日	平成2年3月31日	16,523,260
5	継続	市営浄水場建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (水道建設課)	新井 花和田	散布地	480㎡	本調査	平成元年7月28日	平成2年3月31日	8,750,000
6	継続	後樂園市原レクリエーションワールド建設に伴う埋蔵文化財調査	株式会社 後樂園 スタジアム	萩原野 塚 A区	塚 集落跡	塚1基 37,000㎡	本調査	平成元年4月1日	平成2年3月31日	100,551,838

番号	継続 又は 新規	事業名	受託者	遺跡名	種別	面積・数	事業内容	契約年月日	終了年月日	受託金額
7	新規	後楽園市原レクリエーションワールド建設に伴う埋蔵文化財調査	株式会社 後楽園 スタジアム	萩原野 B・C区	散布地	91,800㎡ 10,000㎡	確認調査 本調査	平成元年4月1日	平成2年3月31日	72,069,835
8	新規	園分寺台遺物実態調査報告	市原市 (文化課)	園分寺台 遺跡群			遺物調査 整理	平成元年7月1日	平成2年3月31日	5,000,000
9	継続	史跡上総園分尼寺跡環境整備	市原市 (文化課)	史跡上総 園分尼寺跡	寺院跡	600㎡	確認調査 整理	平成元年4月1日	平成2年3月31日	10,000,000
10	新規	園分寺薬師堂解体修理に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (文化課)	史跡上総 園分寺跡	寺院跡	470㎡	確認調査	平成元年7月1日	平成2年3月31日	7,698,220
11	新規	上総国府推定地確認調査	市原市 (文化課)	村上遺跡群	散布地	300㎡	確認調査	平成2年2月1日	平成2年3月31日	3,044,680
12	新規	重要遺跡(貝塚)測量確認調査	市原市 (文化課)	山倉天王貝塚・能満分 区貝塚	貝塚	400㎡ 400㎡	確認調査	平成2年2月1日	平成2年3月31日	15,965,000
13-1 13-2 13-3	新規	不特定遺跡発掘調査	市原市 (文化課)	喜多徒士橋 上野合B区 上野合C区		2,920㎡ 440㎡ 430㎡	確認調査	平成2年1月25日	平成2年3月31日	1,276,622 2,495,372 2,495,372
14-a 14-b	新規	市内遺跡群発掘調査	市原市 (文化課)			800㎡	確認調査 本調査	平成元年7月1日	平成2年3月31日	2,378,937 4,717,400
15	継続	園分寺台土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (文化課)	台・神門 ほか	古墳 集落跡		基礎整理	平成元年2月1日	平成2年3月31日	10,000,000
16	継続	市原ゴルフ倶楽部増設に伴う埋蔵文化財調査	サンヨー食 品株式会社	上原台	古墳 集落跡	69,000㎡	整理	平成元年4月1日	平成2年3月31日	7,745,507
17	継続	宅地造成に係る埋蔵文化財調査(市原地区)	東横不動産 株式会社	郡本大宮	集落跡	5,500㎡	整理	昭和63年12月1日	平成2年3月31日	9,204,028
18	継続	ゴルフ練習場建設に伴う埋蔵文化財調査	矢口建材加 工株式会社	北旭台	集落跡	古墳4基 3,500㎡	整理 報告書刊行	平成元年1月10日	平成2年3月31日	9,149,560
19	継続	青柳特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査	青柳土地区 画整理組合	青柳塚群	塚・土塁	土塁2条 塚11基	本調査 整理 報告書刊行	平成元年4月1日	平成2年3月31日	13,000,000
20	継続	宅地造成にかかわる埋蔵文化財調査(姉崎地区)	株式会社 新昭和住宅	姉崎東原	古墳 集落跡	古墳1基 650㎡	整理 報告書刊行	昭和62年10月16日	平成2年3月31日	725,205
21	新規	宅地造成(稚津地区)に伴う埋蔵文化財調査	千葉ホーム 株式会社	稚津茶ノ木	集落跡	2,600㎡	本調査	平成2年1月4日	平成2年3月31日	7,805,077
22	新規	飯給農道4号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (高滝ダム 対策室)	道生堀	包蔵地	1,020㎡	本調査	平成元年9月29日	平成2年3月31日	7,326,390
23	新規	宅地造成(大厩地区)に伴う埋蔵文化財調査	株式会社 一研	大厩浅間塚	古墳 包蔵地	古墳1基 1,430㎡	本調査	平成元年12月11日	平成2年3月31日	10,869,915
24	新規	宅地造成(喜多地区)に伴う埋蔵文化財調査	小川商事 株式会社	喜多徒士橋	集落跡	1,865.85㎡	本調査 整理・刊行	平成元年11月28日	平成2年3月31日	6,457,070
25	新規	史跡整備に伴う史跡上総園分寺跡確認調査	市原市 (文化課)	史跡上総 園分寺跡	寺院跡	1,300㎡	確認調査	平成2年2月16日	平成2年3月31日	4,902,800
26	新規	啓蒙普及用資料作成その他事業	市原市 (文化課)				資料 作成他	平成元年4月1日	平成2年3月31日	8,414,372
合		計								388,820,910

(4) 研究事業

① 職員研修会

平成元年11月24日 於 財団法人千葉県文化財センター及び同センター東関東事務所

② 外部研修への参加

埋蔵文化財発掘技術者専門研修「埋蔵文化財情報過程」

平成元年12月7日～平成元年12月21日

於 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修

平成元年9月7日～平成元年9月8日 於 愛媛県松山市

関東甲信越静地区埋蔵文化財担当者共同研修協議会

平成元年11月15日～平成元年11月16日 於 埼玉県秩父市

(5) 印刷物の刊行

報告書

「青柳塚群」財団法人市原市文化財センター調査報告書第36集

「姉崎東原遺跡」財団法人市原市文化財センター調査報告書第37集

「喜多徒士橋遺跡」財団法人市原市文化財センター調査報告書第38集

「北旭台遺跡」財団法人市原市文化財センター調査報告書第39集

(6) 普及活動

① 遺跡見学会

平成元年7月15日 於 上総国分尼寺跡

② 遺跡発表会

平成2年3月4日 於 市原市五井会館

平成元年度発掘調査成果の発表

担当職員

特別講演『謎の上総国府』

「国府のしくみと役割」 奈良国立文化財研究所 山中 敏史 先生

「上総国府の所在地について」 文化庁 須田 勉 先生

③ 印刷物の刊行

「私たちの文化財」14・15号

「市原市文化財センター年報 昭和62年度」

報告書の刊行及び頒布



上総国分尼寺遺跡見学会



遺跡発表会 特別講演 山中敏史先生

(7) 昭和63年度決算報告

収 入

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
収 入 の 部						
基本財産運用収入	339,000	293,000	632,000	632,381	381	
事 業 収 入	383,402,000	△63,226,000	320,176,000	330,990,167	10,814,167	
雑 収 入	608,000	1,155,000	1,763,000	1,778,536	15,536	
当期収入合計	384,349,000	△61,778,000	322,571,000	333,401,084	10,830,084	
前期繰越収支差額	4,869,000	△393,000	4,476,000	4,476,372	372	
収 入 合 計	389,218,000	△62,171,000	327,047,000	337,877,456	10,830,456	

支 出

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
支 出 の 部						
受託事業費	353,345,000	△58,522,000	294,823,000	301,277,781	6,404,781	
研究事業費	2,936,000	691,000	3,627,000	3,639,261	12,261	
普及事業費	4,019,000	△763,000	3,256,000	3,161,581	△94,419	
一般管理費	20,359,000	△1,334,000	19,025,000	13,178,702	△5,846,298	
固定資産取得支出	1,000,000	-	1,000,000	-	△1,000,000	
財政調整基金 積立預金支出	-	-	-	5,908,842	5,908,842	62年度計上額を 預金積立
予 備 費	2,000,000	△2,000,000	0	-	-	
当期支出合計	383,659,000	△61,928,000	321,731,000	327,116,167	5,385,167	
当期収支差額	690,000	150,000	840,000	6,284,917	5,444,917	
次期繰越収支差額	5,559,000	△243,000	5,316,000	10,761,289	5,445,289	

Ⅲ 平成元年度調査概要

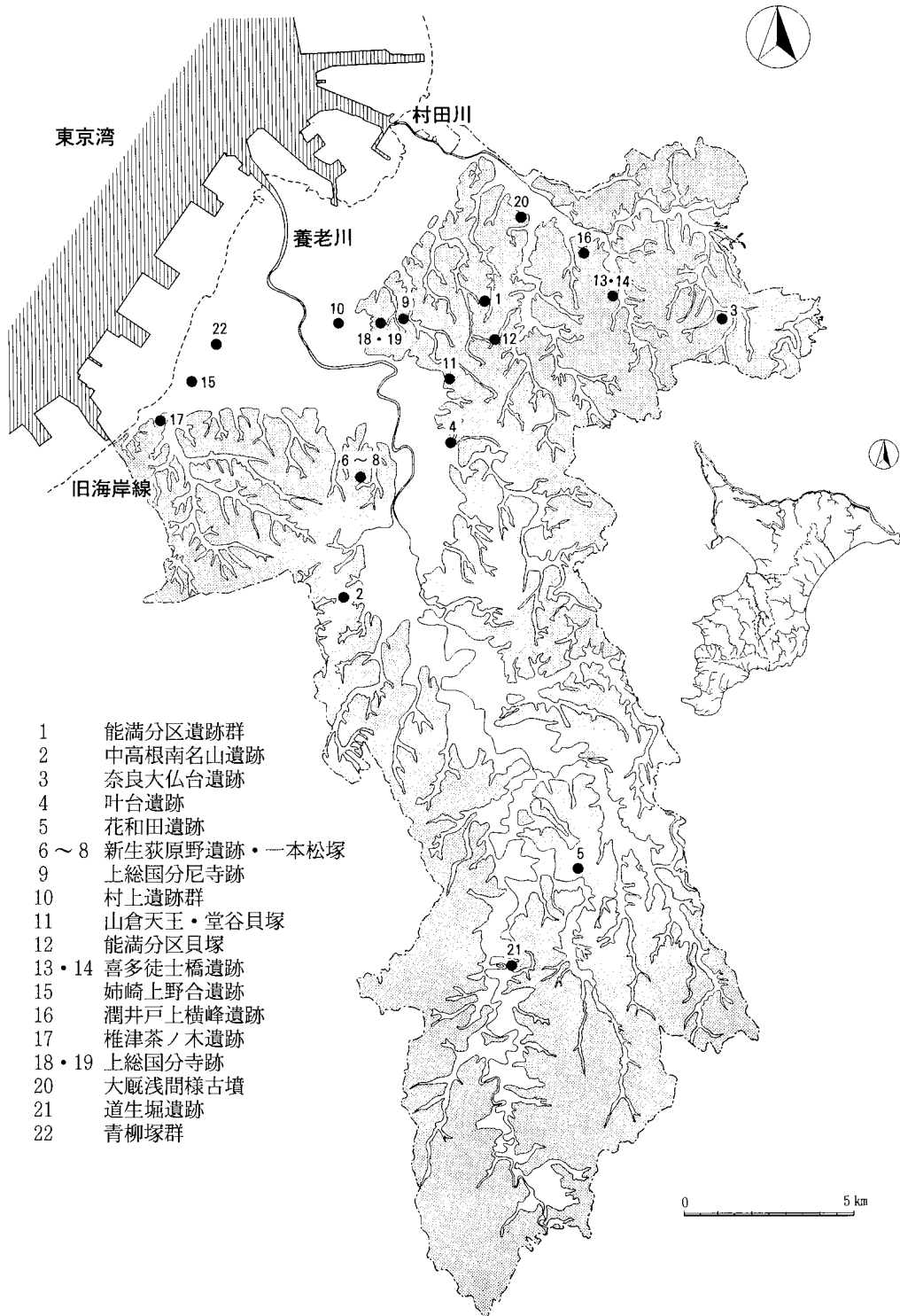
平成元年度の受託事業は、発掘調査、整理等26事業を実施した。事業別の内訳は、本調査が9事業、確認調査が5事業、確認・本調査が2事業、確認調査・整理が1事業、本調査・整理・報告書刊行が2事業、整理・報告書刊行が2事業、整理が2事業であり、他に、国分寺台地区遺跡群の基礎整理、収蔵実態調査がおこなわれた。これを遺跡別にみると、国分寺台関連は別として22遺跡（地点ごとの総数で27遺跡）を対象とし、18遺跡（23遺跡）について調査を実施した。

本年度、対象面積が10,000㎡をこえるものは荻原野遺跡のみであり、小規模開発の進行を反映するものとなった。ただし、上総国分僧寺跡、上総国分尼寺跡、村上遺跡群（上総国府推定地）、山倉天王貝塚、能満分区貝塚については、史跡整備等を含む学術的な調査であり、これも、本年度の特徴といえよう。上総国分尼寺跡の調査は、史跡整備にともなうものであり、前年度の中門跡、金堂跡等に引き続き、鐘楼跡、経楼跡の発掘調査がおこなわれ、金堂院地区の概要が明らかとなった。上総国府推定地の調査は、小規模ながら現在まで引き続き実施されているが、平成元年度はその初年度にあたり、村上地区を対象として実施された。山倉天王貝塚、能満分区貝塚については、地下レーダー探査法により、貝塚範囲の確認を目的としたものであった。

その他、縄文時代については、分布そのものは散漫であるが、荻原野遺跡において縄文時代早期の集落跡が、奈良大仏台遺跡では縄文時代中期の集落跡がほぼ全掘されている。また、能満分区遺跡群は、平成4年度に、猪形土製品等の特殊遺物の出土で注目をあびた、能満上小貝塚の隣接地区にあたる。

弥生時代以降については、叶台遺跡、椎津茶ノ木遺跡で、小範囲の調査ながら、弥生時代中期以降各期に継続する大集落の一端が明らかとなった。このうち叶台遺跡は沖積微高地に立地するが、沖積地の調査は、他に上野合遺跡等でも実施され、今後の調査の増加が想定されるものとなった。大厩浅間様古墳の調査は、昭和59年度に着手したものの、原因者側の事情によって中断していた。大厩浅間様古墳は、村田川流域の前期末の首長墳であり、昭和59年度には、主体部より、珠文鏡、石釧等の副葬品が出土している。今回は、その墳丘部および下層を中心として、平成2年度に継続して実施された。終末期古墳である、いわゆる方形周溝遺構については、荻原野遺跡、南名山遺跡、喜多徒士橋遺跡で検出され、当地域における濃密な分布を再確認させるものとなった。

奈良・平安時代については、前述した上総国分尼寺跡が中心となるが、他に、上総国分僧寺跡では、金堂基壇の一部、西門跡が検出されている。当該期の集落は、本年度も調査例が乏しく、国分寺台地区をのぞく周縁地域では、依然、分布が希薄であるといえよう。



平成元年度調査遺跡位置図

1. 能満分区遺跡群

事業費 市道166号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市能満1898番地ほか

調査期間 平成元年9月21日～平成元年12月6日

調査面積 700㎡

調査概要 今回調査対象となったのは、総延長1.4kmの道路に沿った約14,000㎡のうちの北側の140mの区間である。この一帯は市の遺跡台帳によるとかなり広い範囲を一つの遺跡群としてとらえられているが、調査によって遺跡の内容が明らかになった時点で範囲や名称などについて検討する必要がある。付近の遺跡としては南方約1～1.5kmに能満分区貝塚・烏掘込貝塚・小田部貝塚・小谷吹上遺跡などがある。

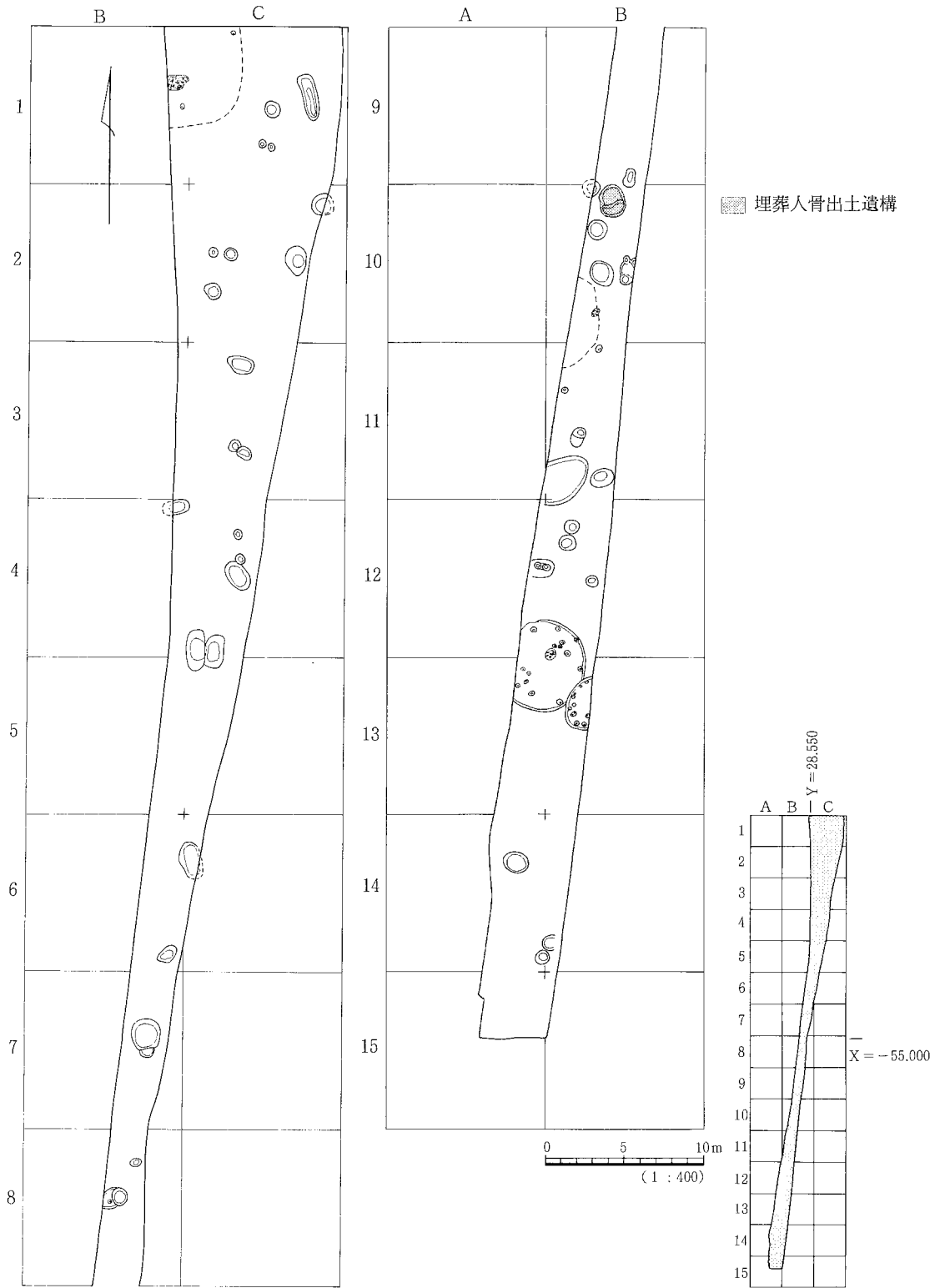
調査の結果、対象範囲が縄文時代中期から後期までの集落の一部であることが明らかになった。遺構としては、縄文中期を主体とする住居跡4・陥し穴1・土坑31が検出された。土坑は開口部の形状や深さから幾つかに分類できるが、用途については現段階では貯蔵穴として使用されたものが多いものとみている。遺物はこれらの遺構に伴うもののほか、約20～50cm程の厚さの包含層から多量に検出されている。主体は縄文中期から後期までの土器片であるが、磨製石斧・打製石斧・石錐・石鏃・石棒・石皿・磨石などの石器もみついている。このほか、貝ブロックも数箇所発見され、なかには貯蔵穴中に約1mほどの厚さで堆積しているものもある。貝層の主体はハマグリ・イボキサゴで、獣骨や魚骨の含まれていることも調査時点で確認できた。特記事項としては、調査区の中央よりやや南にいった部分から発見された埋葬人骨があげられる。貯蔵穴を廃絶した後に墓穴として再利用したもので、3体の人骨が折り重なるようにして埋葬され、その上に少なくとも2体以上のバラバラになった人骨が重なり、さらにたくさんの獣骨片や土器片、焼土が廃棄されていた。人骨の性別・年齢については現段階では不明である。遺物包含層の周囲への平面的な広がり、遺物包含層を残した集落本体の位置の確認は今後の同一路線上の調査や周辺部調査に委ねられた課題である。 (忍澤成視)



土坑内貝層



埋葬人骨



能满分区遗迹群 遺構配置図

2. 中 高 根 南 名 山 遺 跡

事業名 市道6018号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市中高根字南名山1342-26地先他

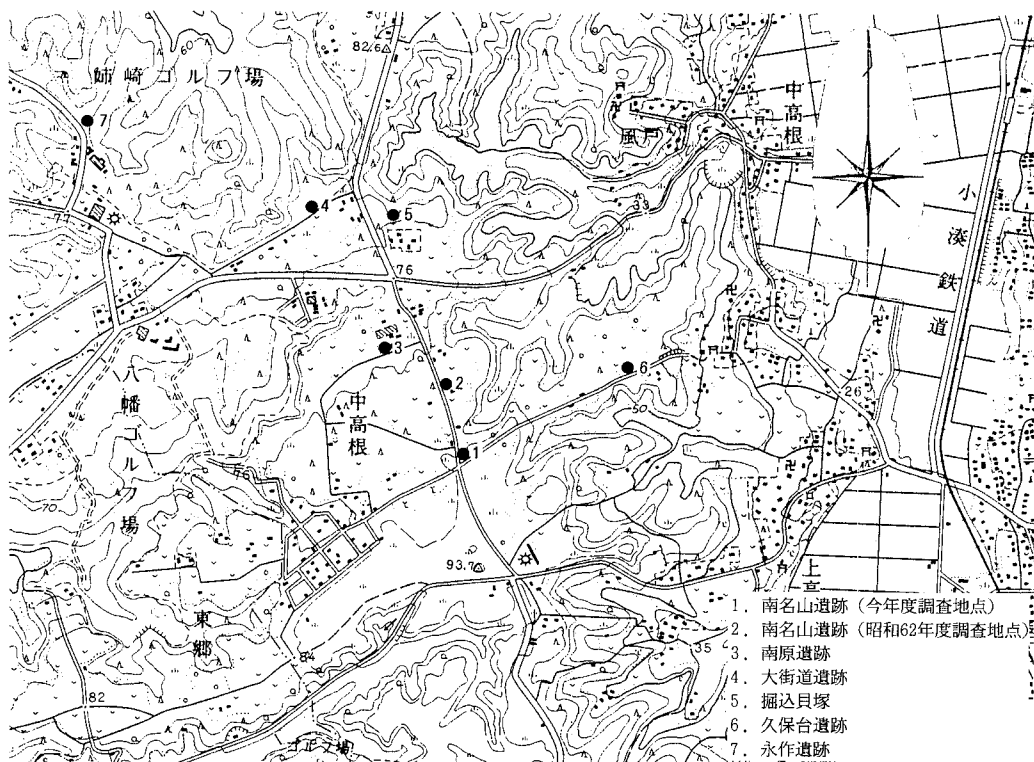
調査期間 平成元年10月1日～平成元年11月30日

調査面積 377㎡

調査概要 調査は、市道6018号線の拡張工事に先行して、昭和62年度の調査地点^(註1)から南に約0.3km程離れた現道東側地区について、確認調査及び本調査を実施した。調査時点における現況は、山林及び荒蕪地であった。

確認調査では、現道東側の調査地区の形状にあわせて、2×5mのトレンチを現道に並行、あるいは直交させ5カ所、また、2×30mのトレンチを調査区東寄りに、現道に並行して設定した。

本調査では、先に確認された方形周溝状遺構2基、溝状遺構2条、土壇2基について調査を実施した。また北側の1カ所と西側の2カ所のトレンチを設定し、先土器時代の調査も併行して行った。



第1図 南名山遺跡位置図と周辺の主な遺跡

1 : 25000

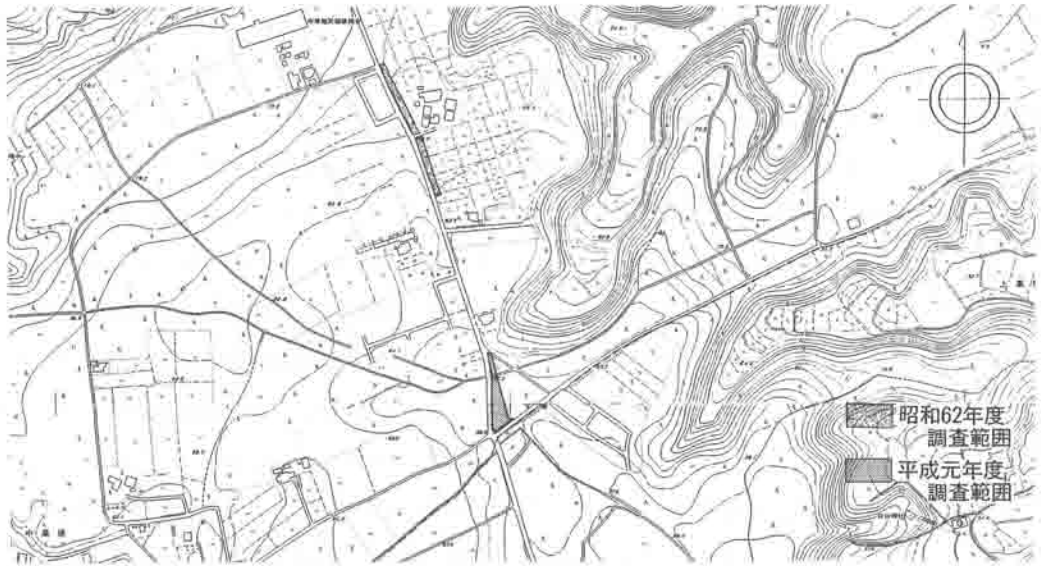
方形周溝状遺構は、周溝の一部を共有しており、周溝覆土中から、自然小礫が多量に検出されるとともに、奈良時代以降の小型壺形土器等も検出されている。主体部については、2基とも確認できなかった。

溝状遺構及び土壇からは、遺物を検出することが出来ず、明瞭な時期の確定ができなかった。また、調査区北側の溝状遺構については、覆土中の硬化面は認められず、道としての機能は考えにくい。

先土器時代のトレンチについては、BBⅡ下層まで掘り上げたが、遺物の出土は認められなかった。
(田中茂良)

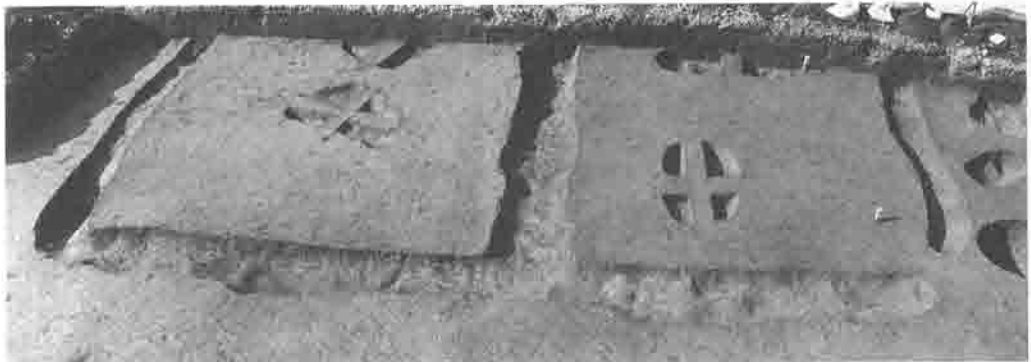
(註1)

田所 真「中高根・南名山遺跡」『市原市文化財センター年報 昭和62年度』1989年



第2図 調査範囲図

0 200 m



方形周溝状遺構

3. 奈良大仏台遺跡

事業名 市道119号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市奈良字屋敷台586番地他

調査期間 平成元年4月1日～平成元年7月31日

調査面積 8,000㎡

調査概要 奈良大仏台遺跡は、村田川左岸上流域の、市原市瀬又で本流に合流する一支流に面した台地上に立地する。

調査は、20,000㎡を対象として、昭和63年度に確認調査を実施し、その結果をうけて8,000㎡に対して平成元年度に本調査を実施した(A地点)。他に、縄文土器の散布が認められた、B地点670㎡について、確認調査時に拡張、本調査を実施している。

遺跡名の「大仏台」は、本調査区の小字名によるものであるが、現在、市指定の石造の等身大釈迦如来像がA地点南東側に鎮座している。

A地点では、調査の結果、縄文時代中期加曽利EⅡ式期の竪穴住居跡3軒、平安時代初期の竪穴住居跡1軒、縄文時代の土坑30基、近現代の炭窯と考えられる焼土坑が3基、溝3条が検出された。縄文時代の土坑30基のうち、いわゆる落とし穴が22基、小竪穴が1基、土坑墓が5基、性格不明土坑が3基であり、落とし穴をのぞき竪穴住居跡と同時期の所産であると推定される。加曽利E式期の集落は、小規模な一過性のものと想定され、ほぼ居住域全体を調査することができた。また、有意の遺構間の土器接合関係が認められ、小規模な一過性の集落ではあるが、集落の基礎単位、および時間的な動態について、比較的とらえやすいものとなった。

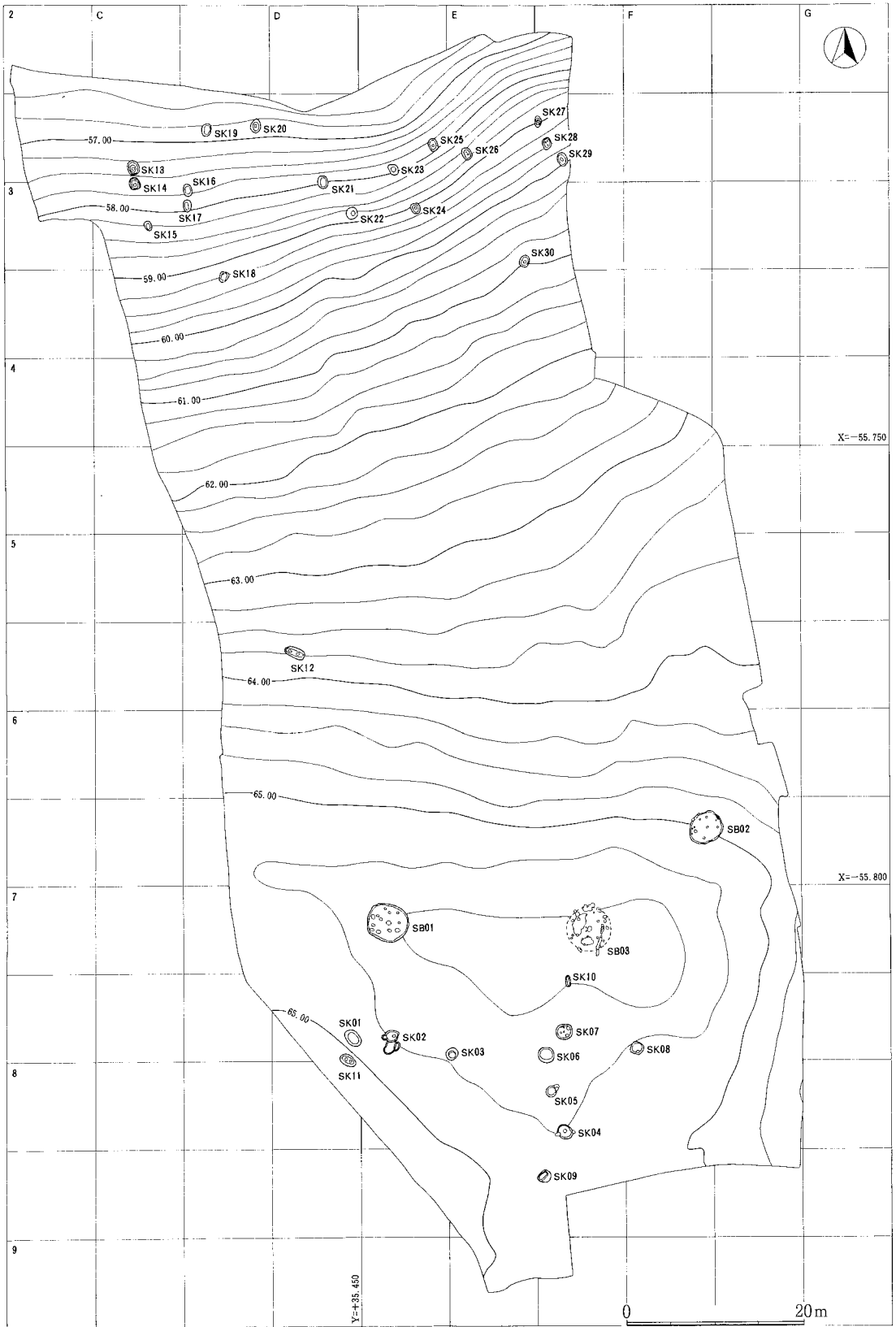
3軒の竪穴住居跡は、遺跡最高部にほぼ半円形に配置され、小竪穴と土坑墓はその背後から検出されている。土器の分布は、おおそ遺構の配置に対応して半円帯状に認められ、その前面中央部は空白域となる。竪穴住居跡は、S B01・S B03が覆土出土土器相互に接合関係が認められたのに対して、S B02は、接合関係をもたず、土器の出土も床直に限られる。したがって、土器編年上の新古は認められないものの、集落の構成時期は2時期によることが想定される。小竪穴などの付属施設については、その配置および土器接合関係から、多くがS B01・S B03との関連性を想起させる。

B地点では、落とし穴1基の検出にとどまったが、沈線文系土器を中心とした、縄文時代早期の比較的まとまった土器の包含が認められた。

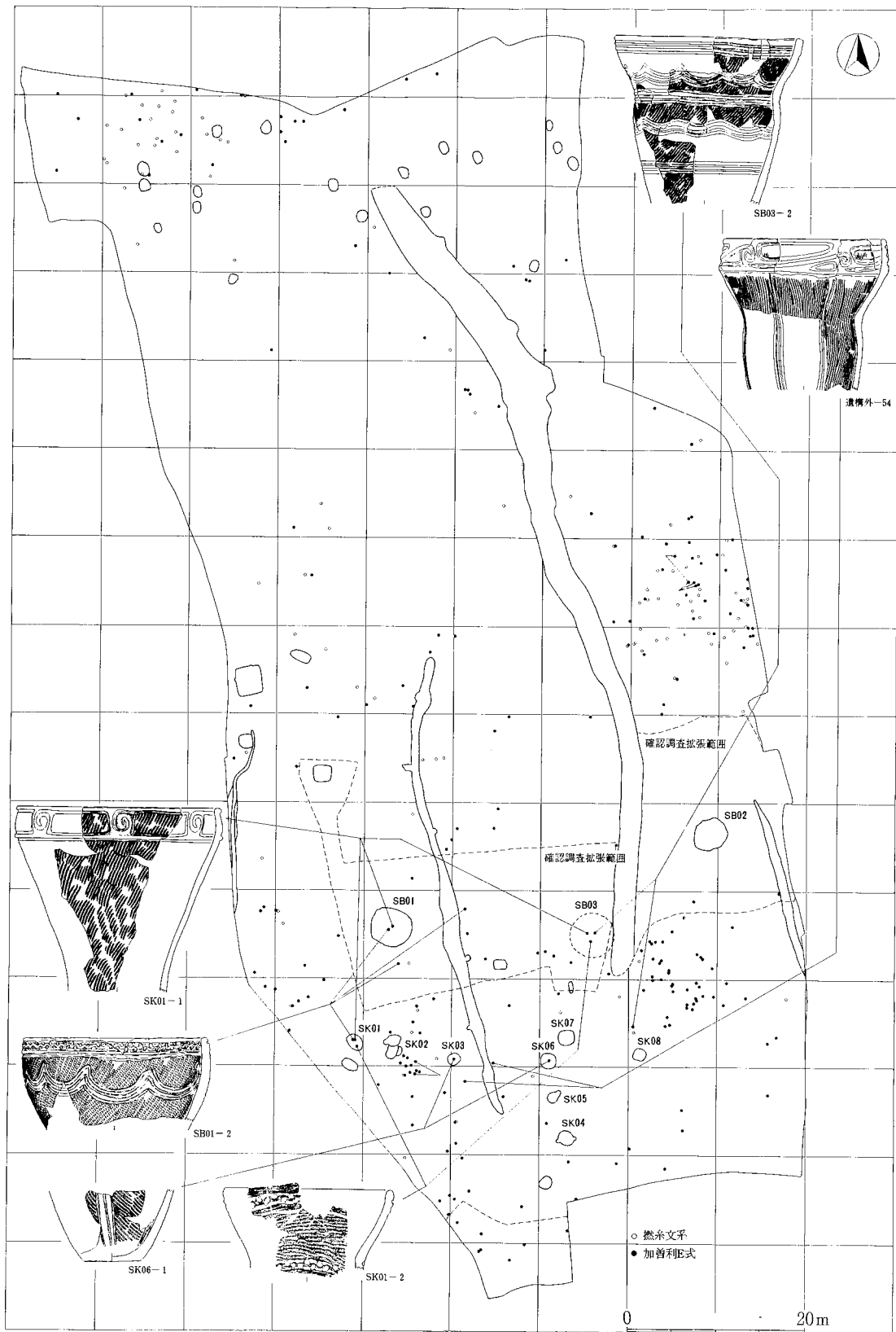
報告書はすでに刊行されており、詳細は下記を参照願いたい。

(大村 直)

『市原市奈良大仏台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第47集 1992年



第1図 奈良大仏台遺跡A地点全体図



第2図 遺構間土器接合関係、遺構外土器分布図

4. ^{かのえ}叶 ^{だい}台 遺 跡

事業名 市道161号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市新堀586番地他

調査期間 平成元年3月1日～平成元年12月6日

調査面積 1,700㎡

調査概要 叶台遺跡は、養老川右岸中流域の、台地先端部から舌状に張り出した沖積微高地上に立地する。微高地の総面積はおおよそ22,000㎡を測る。調査範囲はその一割にも満たないが、調査の結果、弥生時代中期宮ノ台式期から古墳時代後期初頭を中心とする竪穴住居跡69軒(建替えを含めた総数で79軒以上)、掘立柱建物跡1棟、竪穴遺構1基、土坑18基が検出された。竪穴住居跡は、弥生時代中期から古墳時代後期初頭まで、大別型式の範囲内では、ほぼ継続的に認められた。各期の住居数は、とくに弥生時代のものは、複数回にわたる住居間の重複によって、確実に把握することはできないものの、弥生時代中期(I期)が7軒、弥生時代後期(II期)が12軒、弥生時代終末期(III期)が7軒、古墳時代前期五領式期(IV期)が1軒、古墳時代中期和泉式期(V期)が5軒、古墳時代中期後半～後期初頭(VI期)が18軒、古墳時代後期初頭以降(VII期)が4軒である。VI期については、鬼高式初期の椀状杯を主体とする段階である。この間、古墳時代前期後半は未検出であり、VI期以降については断続的である。また、細別的にはさらに断絶を指摘することも可能ではあるが、調査範囲を考えれば、集落そのものの継続性は蓋然性の高いものと判断される。

当該地域では、周知のとおり長期にわたる継続的な集落はかならずしも一般的なものではない。しかし、宮ノ台式期に開始される集落については、断続、反復を含め、居住域あるいは墓域としての比較的長期にわたる土地利用の痕跡が認められる場合が多い。これは、宮ノ台式期の集落立地が、少なくとも市原市域においては、大河川ないし海岸平野に直接接して立地する場合が多く、立地の優位性にもとづくものと判断される。しかし、集落内部について見ると、叶台遺跡においても、つねにその前の時期の住居域を意識した変遷が認められるものの、たえず竪穴住居配置は移動し、一定の群構成をとらない。

なお、VI期に比定される掘立柱建物跡は、桁行5間、梁行5間、桁行約12mを測る大形の建物である。その性格については明確ではないが、竪穴住居群の断絶期前後にあたることから、集落の盛衰、集落そのものの性格の変化に関連する可能性が考えられる。

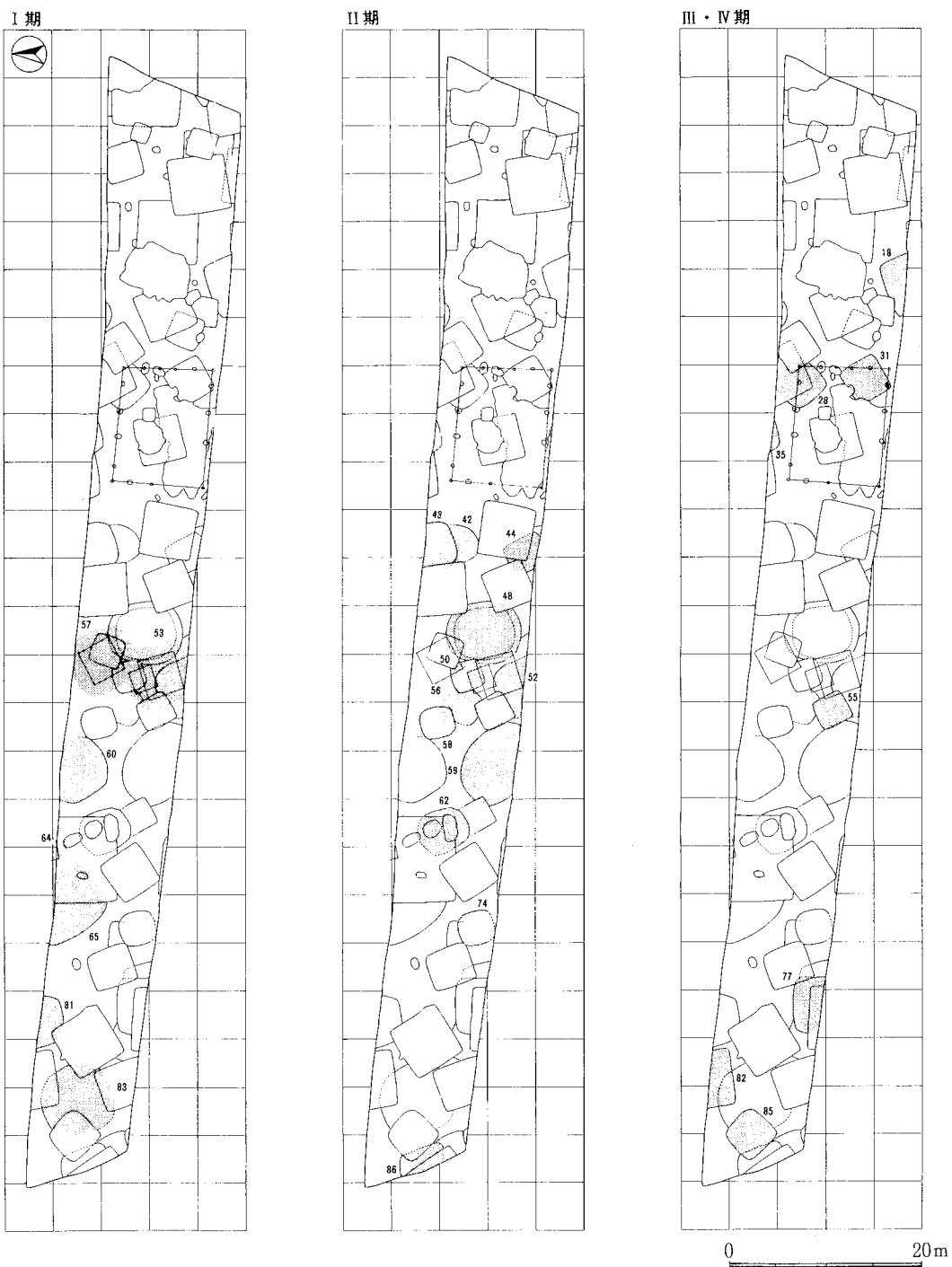
報告書はすでに刊行されており、詳細は下記を参照願いたい。

(大村 直)

『市原市叶台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第44集 1992年



第1図 叶台遺跡全体図

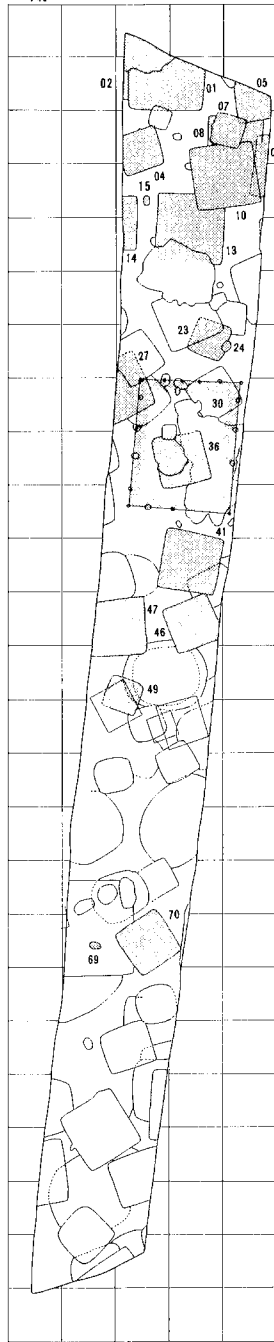


第 2 図 各期遺構分布図 (1)

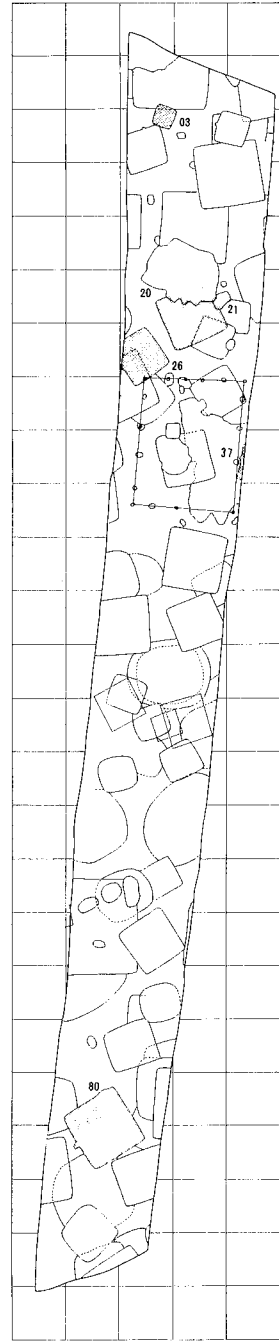
V 期



VI 期



VII · VIII 期



0 20m

第3图 各期遺構分布图(2)

5. 花^{はな}和^わ田^だ遺跡(第2次調査)

事業名 市営浄水場建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市新井731

調査期間 平成元年8月1日～平成元年9月30日

調査面積 480㎡

調査概要 遺跡は、養老川上流域の右岸、同支流の古敷谷川・平蔵川に挟まれた市原南部山地の一角、標高133mを測る尾根状台地上にある。台地上には新井地区保有の供養塚(三山塚)が存在したが、昭和59年度にこの塚を中心とする2,000㎡を第1次分として調査し、塚の周辺部より炭窯・方形周溝状遺構・土坑・溝・縄文時代の炉穴、塚の下層より縄文早期を主体とする住居跡・炉穴・陥し穴・土坑などを検出している(鈴木英啓「新井花和田遺跡」『市原市文化財センター年報 昭和59年度』1985)。今回は、この第1次調査区の南東に隣接する埋没谷部分を第2次分として調査した。

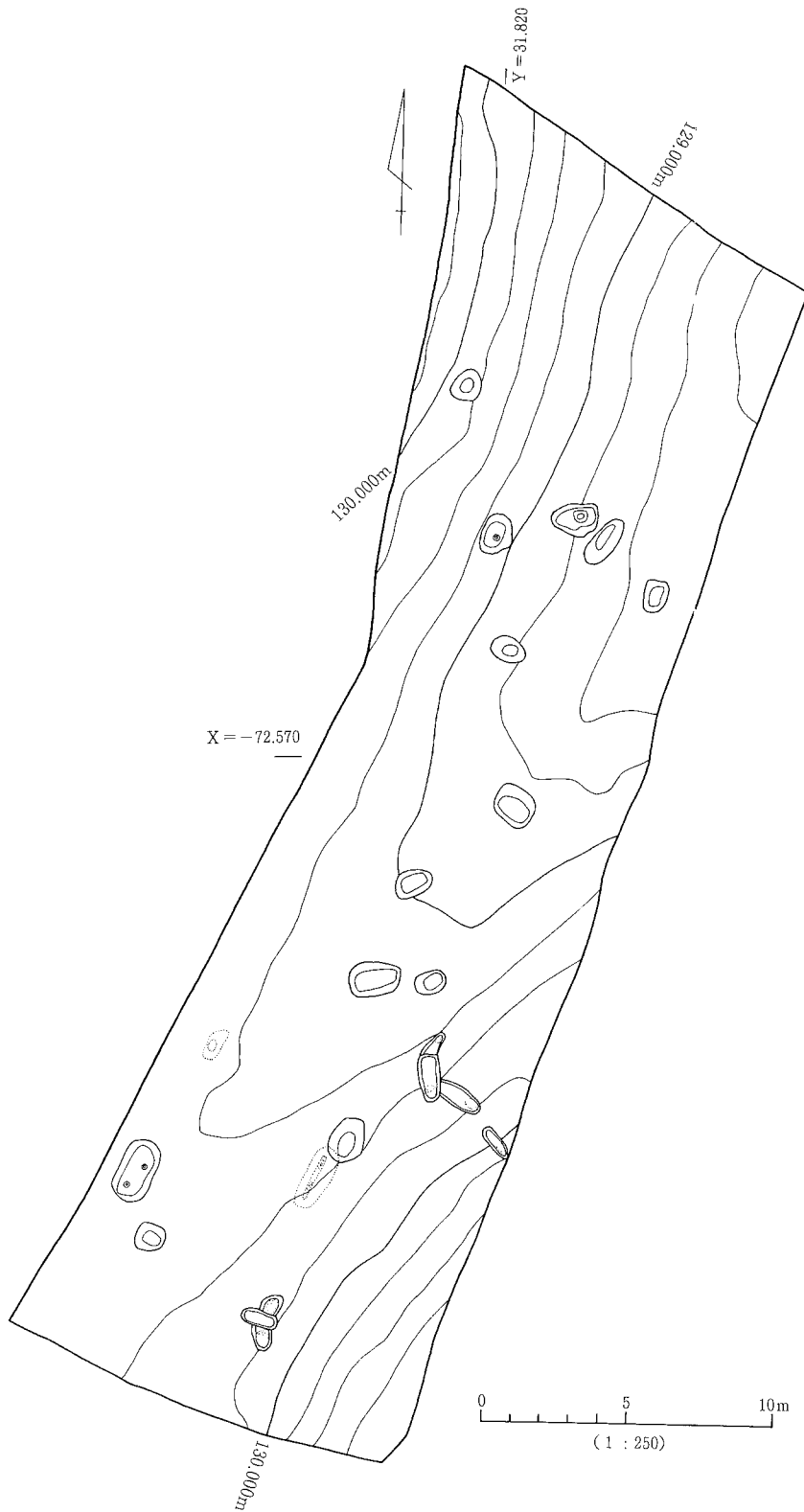
調査の対象は、谷を埋めるかたちで存在する遺物含有層の部分と、その下の遺構である。遺物包含層は厚さ70cm程であり、この中から多量の土器片・石器・礫などが検出された。未整理のため詳細は不明であるが、縄文早期末から前期前半を主体とする時期のものとみられる。遺構としては、炉穴7・陥し穴3・土坑12基が検出され、台地部分に展開する縄文早期の集落の生活の舞台が今回調査の斜面部にまで及んでいることが明らかになった。また、特記事項として炉穴の焼土中よりグルミ・クリなどと思われる炭化物が検出されたことがあげられる。今後整理作業のなかでサンプリングした土を水洗しこれらを抽出すれば、種の同程・量などについて明らかにすることも可能であると思われる。本遺跡は、市原市ではまだ数少ない縄文早期の集落の様相の一端を伺い知れる貴重な資料である。(忍澤成視)



調査区全景(南から)



調査区全景(北から)



新井花和田遺跡 遺構配置図

6. 新生荻原野遺跡A区・一本松塚

事業名 後樂園市原レクリエーションワールド建設に伴う埋蔵文化財調査

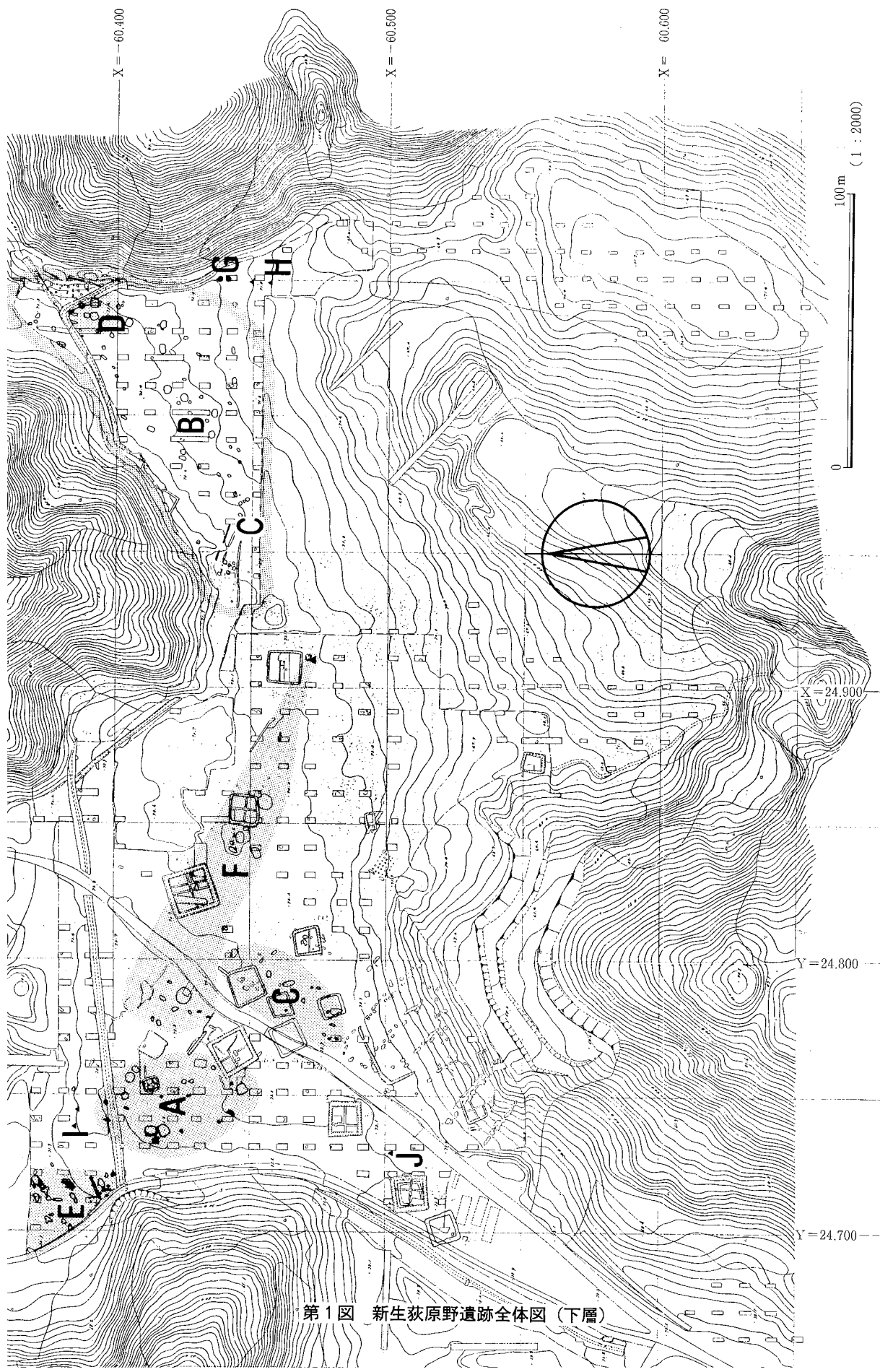
所在地 市原市新三字西荻原野一帯

調査期間 平成元年4月1日～平成2年3月31日

調査面積 37,000㎡

調査概要 本遺跡は荻原野遺跡A区として昭和63年度に、69,800㎡の確認調査を行なった。確認調査の結果、地権者の承諾を得られた大部分から本調査を引き続き始めることになった。また、荻原野遺跡は広大な面積を有するので、調査地域北からA区・B区・C区に分離し、調査を計画した。遺跡のある台地(第3図参照)は、姉崎台地上標高70m～80mにあり、東は安須・高坂地区に源を発する開析谷、西は引田地区を源とする引田川開析谷となる。また南は養老川と椎津川支流片又木川の分水嶺となる光風台団地、北は姉崎台地が段丘として標高を下げ、養老川開析のデルタ地帯となる。姉崎台地は台地の尾根が南北に長く、南部は標高を上げながら音信山おとづれやまから標高285mの大福山に続き奥清澄山地域につながる。それは、養老川と小櫃川の分水嶺となるもので、尾根道の交通路として古くから発達していたものと考えられる。

A区の縄文時代はA区東半分の高坂川側と西半分引田川側に別れて遺構が存在する(第1図参照)。早期稲荷台式期は、A域内に集中し、住居跡4基、集石1基、土坑多数がある。早期沈線文系の田戸下層式期はB域内に集中し、住居跡7基、土坑多数となる。またC域内も同時代の土坑の集中が認められる。B域内に含まれる様子でD域がある。D域内は条痕文が認められる炉穴が集中し、陥穴が4基並ぶ。条痕文を有する土器が田戸式に含まれるかは未整理のため不明である。B域内は包含層が広がり、早期田戸式を主体として前期の諸磯式・十三菩提式等の土器片を採集している。土器の他に黒曜石の厚礫、フレイク、礫の他石斧等を検出し、これらは最小グリッド1m区画で全面掘り下げ記録した。E域は炉穴集中区域で条痕文を主体として出土している。包含層は薄く遺物の出土量は少ないが石斧等を採集している。F域は縄文時代中期の加曾利E3式期の集落で、住居跡4基と土坑が数基まとまっている。東端の▲印は埋甕で2個体出土している。また小型の住居跡内で曾利系と考えられる完形の大型の深鉢を検出している。Gの●印2地点は貝ブロックで土器等の出土がないので時期は不明である。貝種はアサリ、キサゴ、マテガイ等で縄文時代であろう。径1m深さ0.5m程の土坑に充満した状態であった。Hは土器が2個体遺棄されていた。Iは加曾利B式期の土器の廃棄地点であり、Jも同様に縄文後期の土器が検出された。A区は縄文早期の段階に人々の生活が始まり、後期まで断絶をしながら生活域に使用された。縄文中期の同時期にはC区にも同様な小規模集落が存在する。弥生時代は後期の土器を数点検出されたのみで先史の主体は縄文時代である。



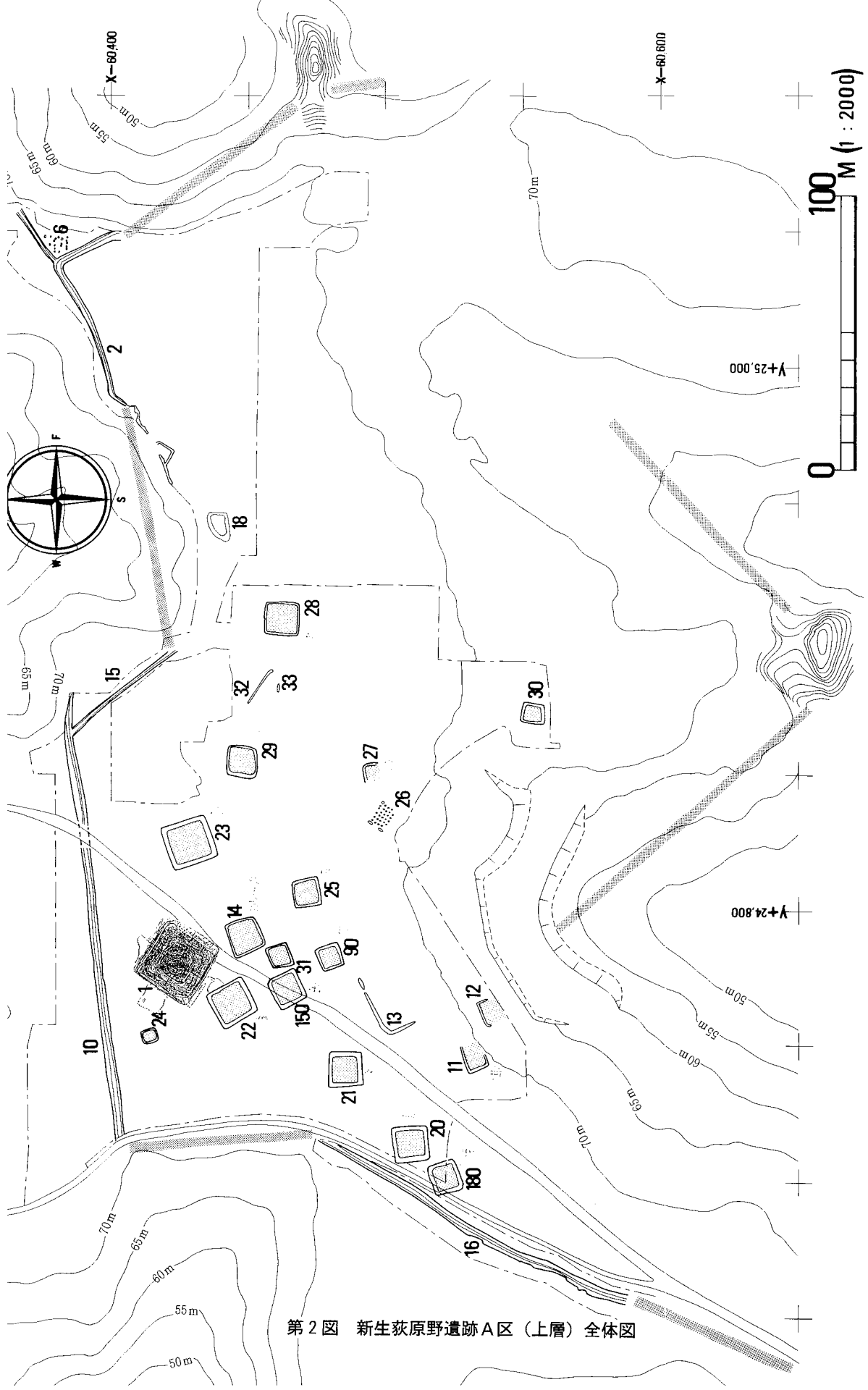
第1図 新生荻原野遺跡全体図(下層)

荻原野遺跡A区の上層遺構の主体は、終末期の古墳群で、総数17基ある。すべて方墳形で、一辺5m前後から15m程の規模を有する(第2図参照)。墳丘は畑地のため、皆無で検出されなかった。20号は周溝内側土壇上に周溝と同様の方形の小さい浅い溝を廻らしその部分を堅くしている。その堅くつまった面上に焼きの甘い白黄色の須恵器の長頸壺が1点出土している。主体部は明確でなく、不整形の土壇状のものであった。21号は周溝底の荒掘り面に鋤先痕を明瞭に残し、先が様にU字形をしていた。周溝南辺部より刀子を検出している。31号の周溝内は四辺に木炭を多量に含み、その間に土師器片を検出し、椀形の完形土師器を復元している。主体部は検出されず、周溝も20cm～30cm内外と浅いため、それらの木炭片は主体部との関連が注目される。25号は明確な木棺直葬の土壇を有しロームを深く掘り込み木棺周囲をロームブロックで充填していた。23号は本群で最も大きく周溝も1mと深い、木棺直葬の土壇を有していた。

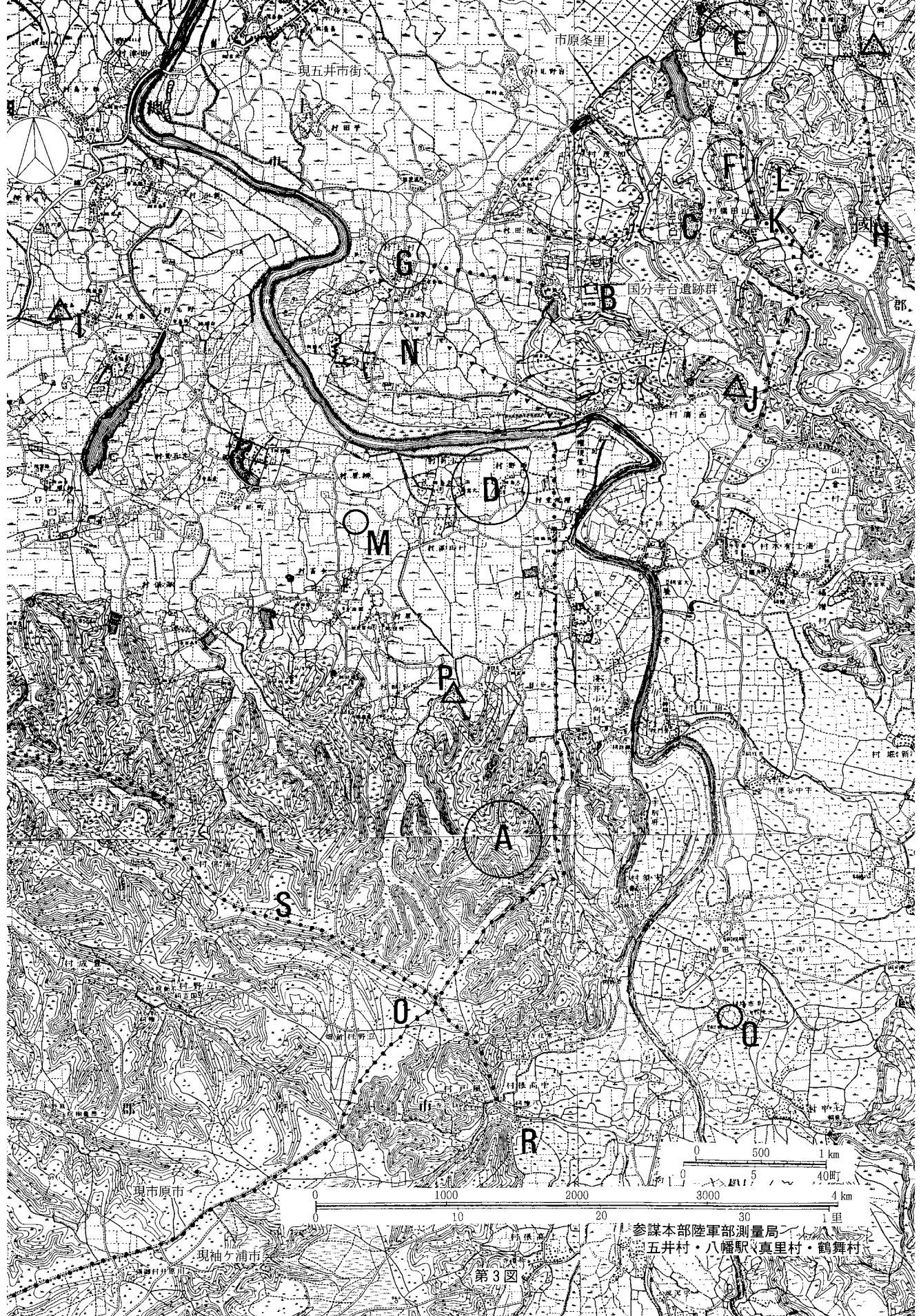
A区内は四方に小支谷があり、平坦部を切り込んでいる。そのため舌状の尾根台地が延びている。その尾根を広い台地から切り離すように10号溝、2号溝が走っている。15号溝は10号から分岐する形で、10号と2号を結ぶかの様である。10号、2号とも3回以上の掘り返しがあり、10号では北方向へ若干ずつ動いた状態で土層観察され、南側部に土盛りをした様子である。台地東側の斜面の尾根部分と同様に南側にも尾根の切り離しの切り通しが観察され、荻原野周辺地域にも山を切土した部分が散在する(第4図参照)。また確認調査を行なった西側台地にも、16号の大溝が検出されている。それらは台地平坦部を占有するかのようである。

1は一本松塚で、糸久村の出羽三山信仰による三山供養塚で一辺25m、高さ3mの大型のものである。塚墳丘内には、12枚の銭とカワラケ1枚が検出された。また墳丘下には、土坑が掘られ、カワラケ50枚以上とその上に、常滑壺が1個埋納されていた。壺内には古寛永通宝が6枚組となって400枚以上納められており、木製の蓋で密封されていたらしい。

第3図は本遺跡の歴史環境図で、Aは荻原野遺跡A区・Bは上総国分僧寺、Cは国分尼寺である。本遺跡の真北にDの海上郡衙推定地があり、Eは市原郡衙推定地また国府推定地でもある。EからKの山田橋^{おとてつち}表通遺跡までは古代官道が●印で確認されその周辺には、Fの稻荷台遺跡、Lの千草山遺跡、千草山廃寺と古代の遺跡が並ぶ。●印はさらに南下しJの前広神社(国史現在社)付近までのルートはおおよそつかめている。△印のIは嶋穴神社(式内社)であり、嶋穴駅推定地と隣接している。Gは村上遺跡群でNの旧養老川河道との関係で注目されている。Mは、今富廃寺、Qは二日市場廃寺である。Hは上細工^{かみせいくだ}多遺跡で古代の関連施設であるらしい。Oの●印は鎌倉街道とされているもので小字に名を残している。OからSのルートは姉崎神社(式内社)への尾根道となる。Rは鶴峯八幡宮で中世城郭になる。周囲は風戸日光寺の木造聖観音立像や、上高根称礼寺の木造薬師如来坐像及び両脇侍立像三軀等、古代中世の遺物、遺構が数多い。●印は鎌倉街道=古代官道としたものではないが、ルートの相関関係を有している。(近藤敏)



第2図 新生荻原野遺跡A区(上層)全体図



参謀本部陸軍部測量局
 五井村・八幡駅・真里村・鶴舞村

第3図



第4圖

7. ^{あら おい おぎ わら の}新生荻原野遺跡 B・C区 (確認調査)

事業名 後樂園市原レクリエーションワールド建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市新生荻原野

調査期間 平成元年5月6日～平成元年8月31日

調査面積 91,800㎡のうち9,180㎡

調査概要 荻原野遺跡は、養老川流域の平野に向かって南北に連なる標高74～82mの台地上に位置しており、レクリエーション施設の建設に先立って調査を実施した。

1.5km以上にわたって散在する遺跡は、北から南に大きくA・B・Cの3区に分けられ、北側のA区は昭和63年度に確認調査を行い平成元年度に本調査を行った。B・C区については平成元年度に確認調査を行い、遺構の多い部分について年度内に継続して本調査を行う事となった。なお確認調査は、座標上の2×4mのトレンチを基本としてB区東側やC区北側など斜面途中でテラス状の部分がある箇所についてはテラス状の部分まで斜面に直交するように任意にトレンチを延ばして設定した。荻原野遺跡全域にわたって、台地縁部に土塁状の高まりが観察され、斜面にも人為的に地形を改変した痕跡があり城郭などの可能性も当初は考慮されたが、このトレンチにより、昭和30年代に畑地を開墾した結果である事がわかった。

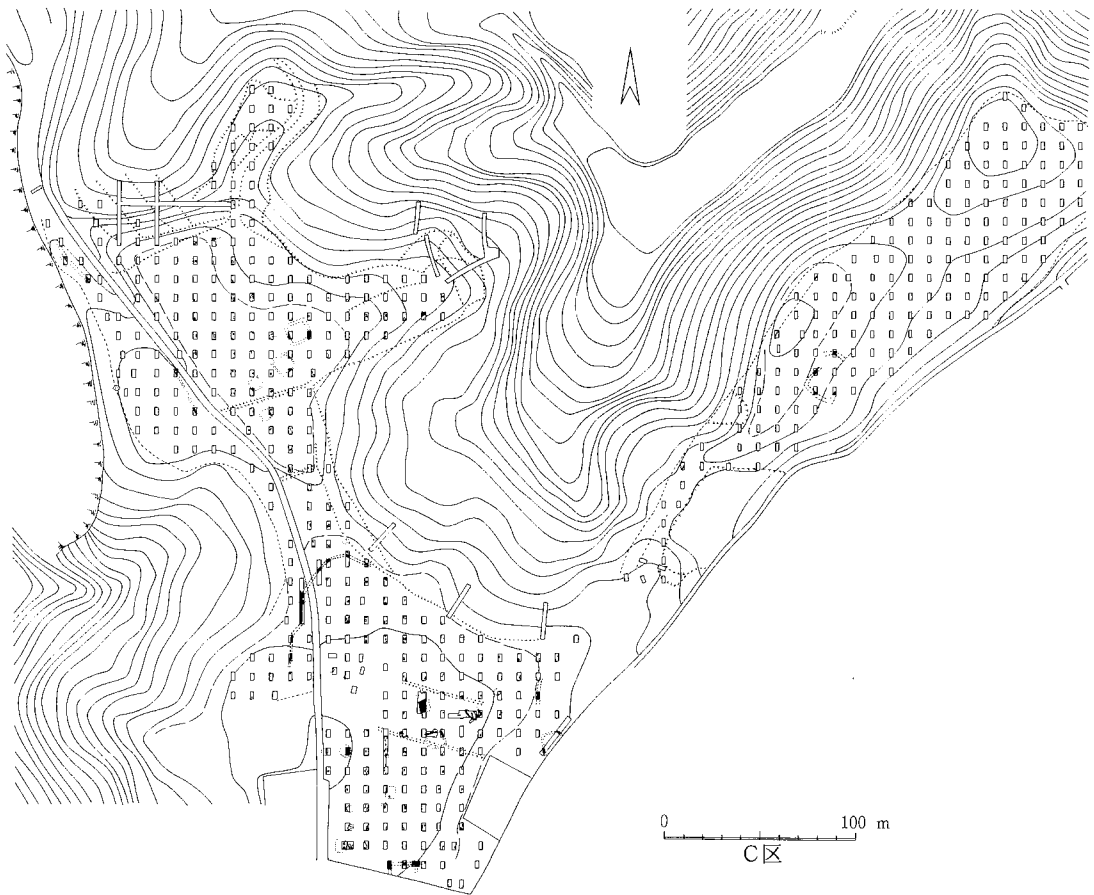
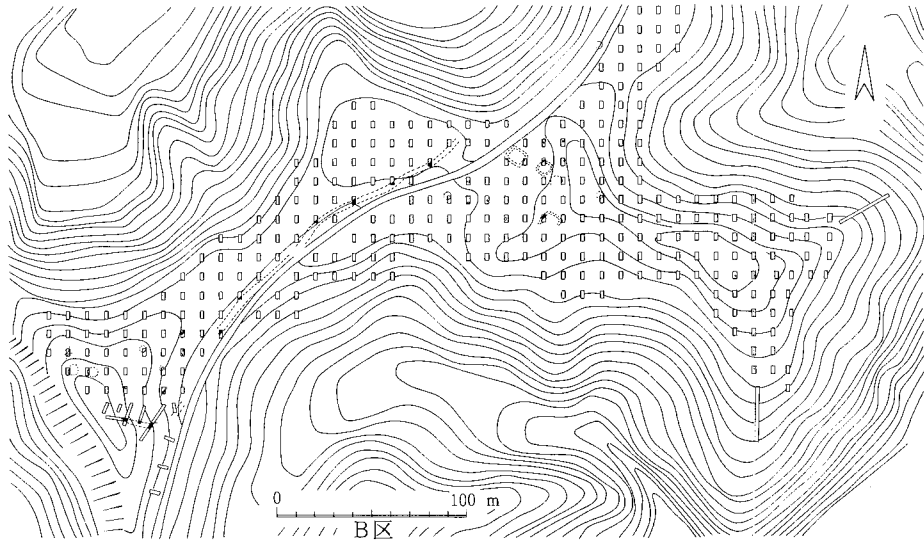
B区の調査 中央部のB区は東西440m南北260mの範囲で約2,800㎡を調査した。平坦面の少ない地形のため対象面積の広さに比べ遺構は少なく、確認の結果中近世の道路跡3条、縄文時代の陥し穴、土坑などが散在して検出された。遺物についても、縄文時代各時期の土器片がわずかに見られる程度で遺跡としての密度は希薄なものであった。

C区の調査 南北1.5kmほどの舌状台地上に散在する荻原野遺跡の南端で、北に向かい幾つかに別れて延びる舌状台地の基部に当たる台地とその北に接する台地、北東に延びる細い馬の背状の台地について南北450m東西560mの範囲を荻原野遺跡C区として調査を行った。確認調査の面積は約6,380㎡である。北側台地では、台地の平坦面に4基の方形周溝状遺構と思われる溝跡が確認された。また現道に接するように中近世の道路跡と思われる硬化面のある浅い遺構が確認された。これ以外は遺構は希薄で陥し穴4基、土坑十数基が散在して検出されている。

北東に延びる台地は、平坦面がほとんど存在しない馬の背状の形態のためか、ここも遺構は希薄で、ほぼ中央部の最も幅の広い部分で方形周溝状遺構の一部と見られる溝が4ヶ所のトレンチから検出されている他は、陥し穴や土坑がわずかに見られる程度である。

南側の台地では、耕作のため表土は浅いものの中近世の溝・道路跡、方形周溝状遺構、古墳時代後期の住居跡、炉穴・陥し穴などが検出され、確認調査から継続しての本調査はこの部分の14,000㎡を対象として行う事になった。

(半田堅三)



荻原野遺跡B・C区確認調査トレンチ配置図

8. ^{あら おい おき わら の}新生荻原野遺跡 C 区 (本調査)

事業名 後樂園市原レクリエーションワールド建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市新荻原野

調査期間 平成元年9月1日～平成2年3月31日

調査面積 14,000㎡

調査概要 南北1km以上にわたり台地上に散在する荻原野遺跡の南端で、北に向かい幾つかに別れた舌状台地の基部とその北に接する台地、北東に延びる馬の背状の台地について荻原野遺跡C区として確認調査を行った。このうち南側の台地で、溝・道路跡、方形周溝状遺構、住居跡、炉穴・陥し穴などが確認され、この結果に基づいて南側の台地上14,000㎡に対して平成元年9月から本調査を行った。

調査の結果、炉穴13群、陥し穴12基、縄文時代中期住居跡1基、古墳時代後期住居跡10基、古墳時代終末期方形周溝状遺構6基、中近世を主とする溝・道路跡9条などが検出された。

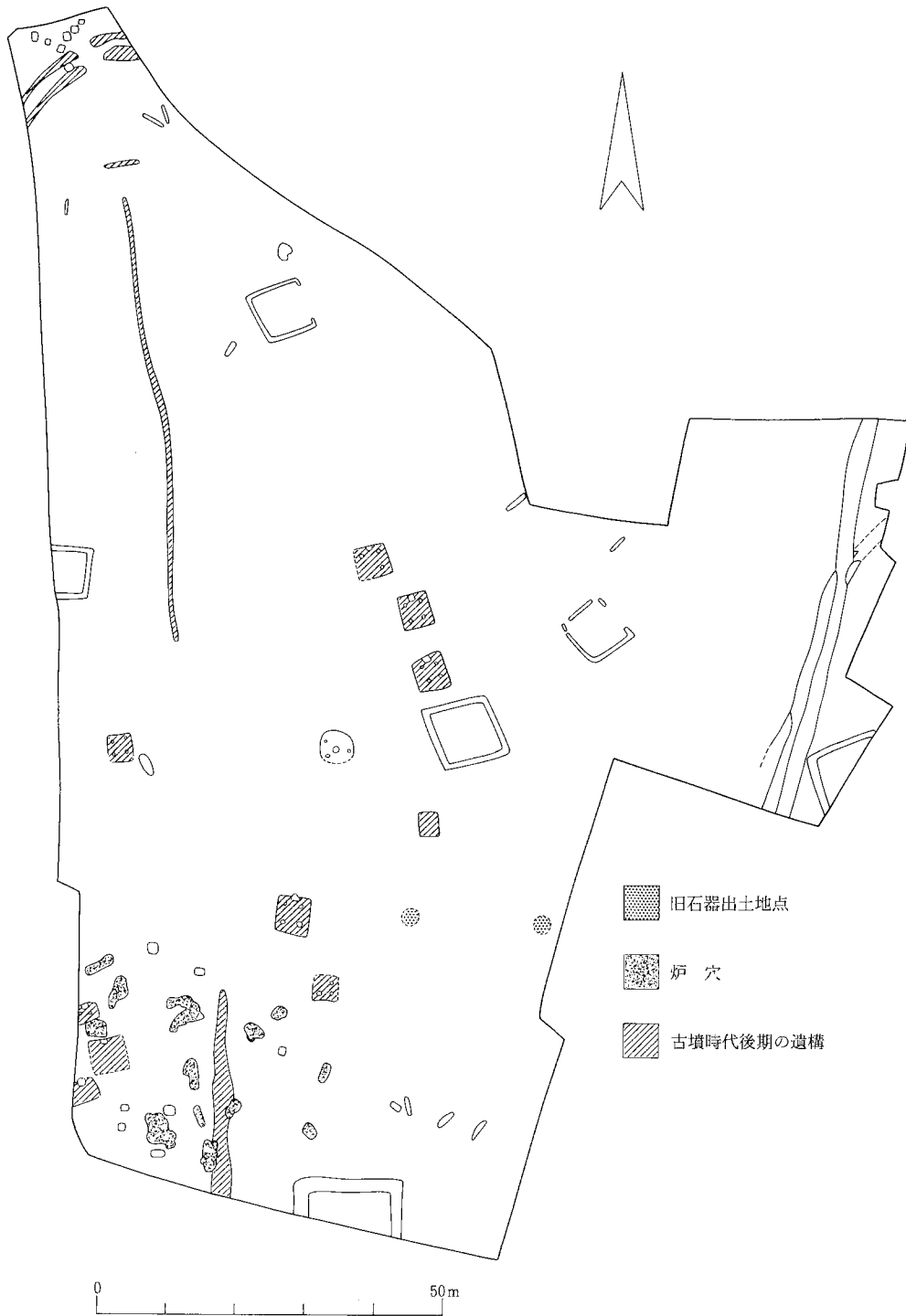
炉穴は調査範囲南部で、直径40m程の範囲から集中して13群が検出された。2基から7基の炉穴が複合する形で群となっており、いずれも火床上や覆土中に縄文時代早期の土器片が残されており、この内1基からは、石皿と磨石のセットが火床の焼土中から出土している。陥し穴は、調査範囲の南東と北側に2～3基ずつまとまって検出されている。調査範囲のほぼ中央部で直径3m弱の円形の住居跡が1基検出され、炉中に加曾利E1式の深鉢上部が埋設されていた。また炉の北側からは埴石を削り出して作った直径12cmほどの壺形の容器が出土している。

古墳時代の住居跡は、調査範囲西端の1基を中心に直径70mの円弧を描くように10基が重複なく並んでおり短時間の集落と考えられる。調査範囲の西よりに南北に硬化面のある道路跡と考えられる浅い溝があり、溝の途切れる北側には目隠しのように直行する短い溝、その北側に中央部に土橋のある二重の溝が検出されている。この二重の溝は両側の確認調査でもその延長が検出されている。また南北の溝は住居跡の描く円弧の内側50mほどは途切れていて検出されていない。二重の溝の間にその溝を掘りあげた土による低い土塁が想定でき、周囲を土塁で区画し中央の広場にいたる道を待つ集落が復元できる。

方形周溝状遺構はいずれも上部が既に削平され、墳丘・主体部などは検出されなかった。遺物も少なく、南端の最大の方形周溝状遺構から長頸壺の口縁が1点出土しているのみである。

溝・道路跡のうち東端のものは、断面V字形の深いものと幅約4mの浅いものが重なっており途中で幾層か踏み固めによる硬化面があるところから中近世の道路跡と考えられる。この遺構の東側の現道は鎌倉街道に比定されており、この道路跡も鎌倉街道に関係のある遺構の可能性を考える事が出来る。

(半田堅三)



荻原野遺跡C区本調査範囲全体図

9. 史跡^{かず}上^き総^{こく}国^ぶ分^に尼^し寺跡

事業名 史跡上総国分尼寺跡環境整備事業

所在地 市原市国分寺台土地区画整理事業地内第Ⅰ工区第101街区ほか

調査期間 平成元年4月1日～平成元年7月31日

調査面積 757,65㎡

調査概要 今回の上総国分尼寺跡の発掘調査は、史跡環境整備事業の一貫として市原市教育委員会が計画したものであり、主要伽藍のうちの不明な遺構の解明を目的に、二か年事業として実施された。昭和63年度は金堂院地区、平成元年度は講堂周辺を主な対象とし、B期伽藍のうちの金堂・中門・回廊・講堂・鐘楼・経楼の基壇と建物の平面と構造・変遷を明らかにした。これによって、南大門を除く伽藍の全貌が判明し、復元的整備の拠り所となる成果を得ることができた。発掘面積は合わせて1,448㎡である。以下、平成元年度調査によって明らかとなった遺構の概要について述べる。

講堂は、金堂心から43.8m弱北に中心を置く、72×53尺の瓦積基壇の上に建つ、桁行5間59尺・梁行4間40尺の4面庇付きの五間堂である。柱間寸法は、身舎の桁行が13尺等間、梁行が10尺等間、廂の間が10尺である。掘込地業の東西幅は基壇より広く、25～25.5mある。これは、当初七間堂を想定して築かれたためらしく、その時代の内陣部分の掘込地業は省略された特異な構造であることが判明した。

当初の講堂は焼失したらしく、平安時代に、桁行5間34.5尺・梁行4間29尺の一回り小さな掘立柱の五間堂に建替えられている。

鐘楼と経楼は、金堂と講堂の間で、東面と西面回廊を北に延長した位置に向き合って建つ。仮に、西面を鐘楼、東側を経楼とした。共に桁行3間30尺・梁行2間20尺の南北棟建物で柱間寸法は、10尺等間と推定される。棟通りの柱の有無は確認できなかったが、掘込地業が他の堂舎に比べて格段に堅牢であることから、楼造りと推定される。基壇は44×34尺で、外装は瓦積みであろう。鐘楼と経楼の造営は、伽藍全体の中でもやや遅れた形跡がある。

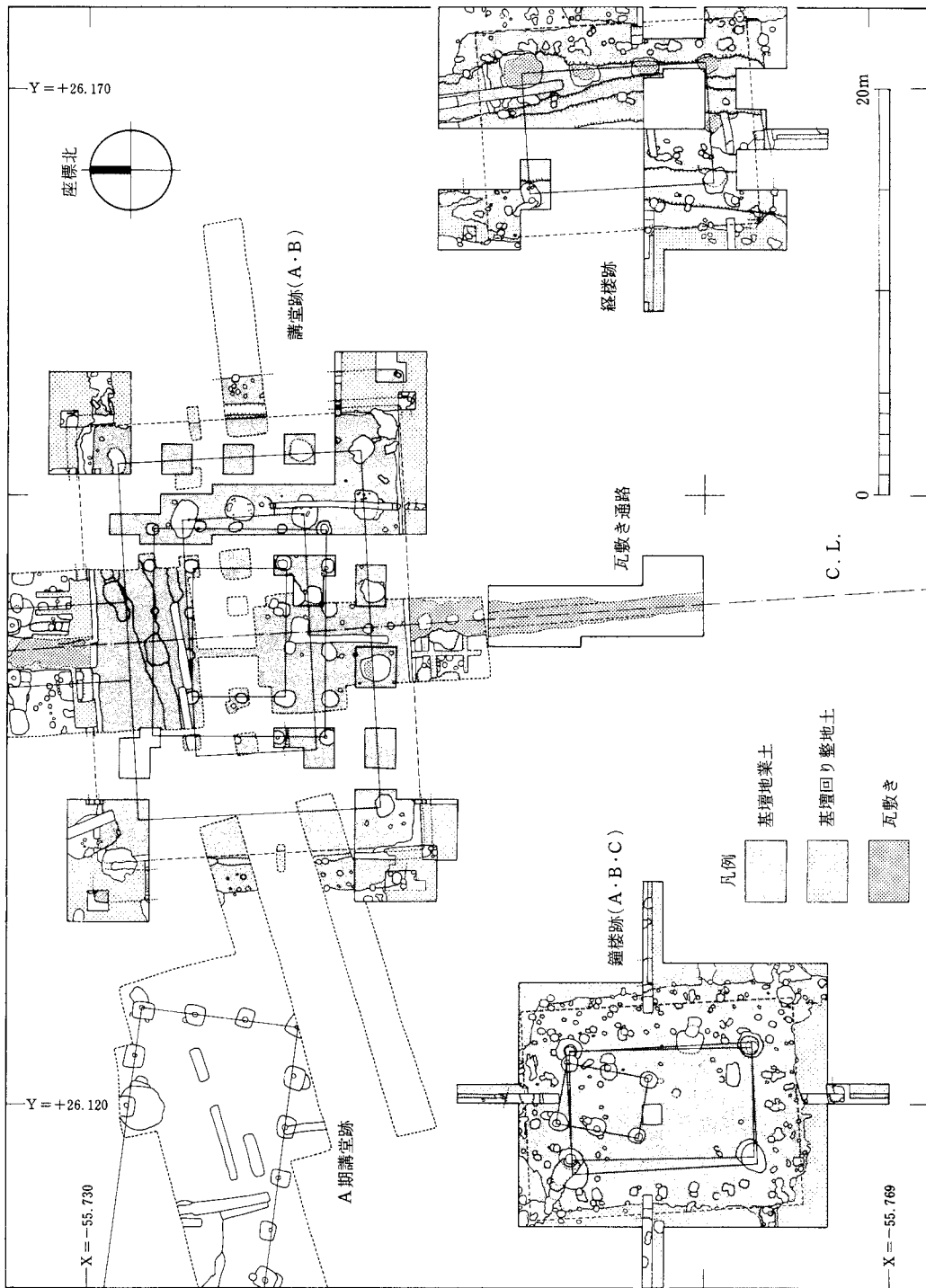
鐘楼は、平安時代に、桁行29尺・梁行18尺の掘立柱建物（B）に建替えられているが、四隅の柱穴しか検出できなかった。この柱を抜き取った後、基壇の北寄りに桁行2間13.5尺・梁行1間10尺の小さな南北棟の掘立柱建物（C）が建てられている。

鐘楼Bの東南隅柱の抜取り穴から、炭化した螺髪が出土した。直径が3cmあり、丈六仏の可能性が高い。国分尼寺に、木彫の丈六の如来仏が存在したことを示す重要な資料と思われる。

この他に、金堂・講堂間の瓦敷き通路、金堂東方仏堂の西側柱、中門南方の性格不明の掘立柱群などを検出した。また、金堂の西方で、A期伽藍の金堂跡を追求したが、今回の発掘範囲

では確認できなかった。A期は、尼僧の日常活動に必要な講堂と尼坊からなる、仮設的なものであった可能性が一層強くなった。

(宮本敬一)



史跡上総国分尼寺跡講堂周辺地区全体図(実線内が今回発掘範囲)

10. 村上遺跡群

事業名 上総国府推定地確認調査

所在地 市原市村上1126-1

調査期間 平成2年2月19日～平成2年3月14日

調査面積 2,377㎡のうち30㎡

調査概要 上総国府の所在地については、村上地区の低地（微高地-村上遺跡群）と、市原から山田橋にかけての台地の二ヶ所が、有力な推定地として挙げられる。この両地域については、開発による市街化が進みつつあり、国府域の早急な発見が急務である。

今年度は、推定地内の分布調査を行うと共に、村上地区を対象とした確認調査を実施した。

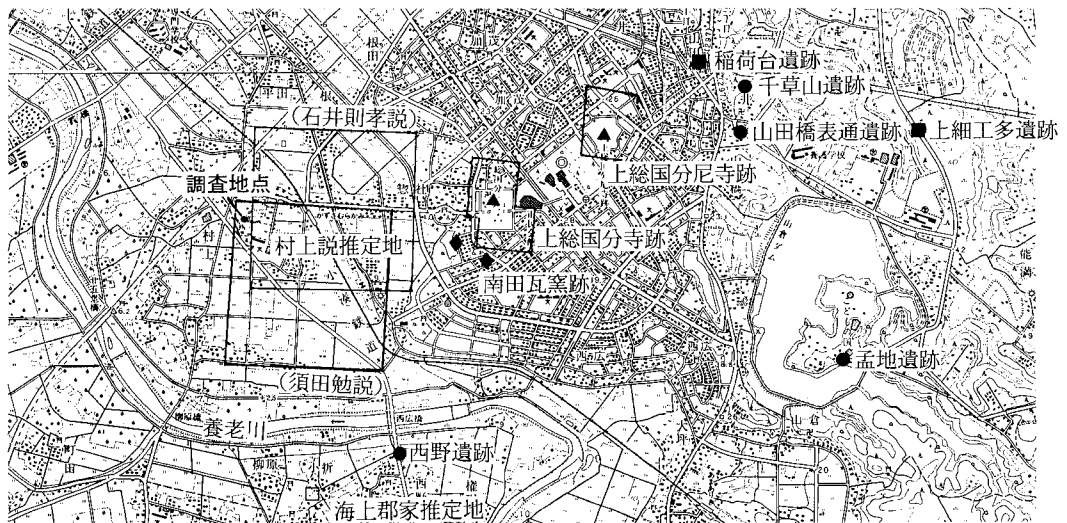
村上説の対象とする国府域推定地は、養老川右岸沖積地の中でも、比較的広い微高地（自然堤防）が確保できる地域であり、今回の調査地点は中でも標高がやや高い。

現況は、宅地ならびに畑地であった。調査は、座標軸に添って設定した2m×2mのグリッド6ヶ所によって実施し、遺構の性格等を確認するため、若干の拡幅を行った。

調査によって確認された遺構は、中・近世以降の土壌4ヶ所・溝8ヶ所・炭窯1ヶ所、桶埋設土壌1ヶ所であった。桶埋設土壌の中には布目瓦が多量に詰まっていたが、二次的に焼けた棧瓦が含まれており、炭焼きに伴う新しい遺構と考えられた。また、出土遺物は、瓦の他土師質土器片、中近世陶磁器片、鉄・青銅製金具類、銅銭、鉄滓等であった。

今回の調査範囲からは、古代に遡る遺構は検出されなかったが、多量の布目瓦の出土は注目すべき事象と考えられる。平成5年度に、本事業の報告書を刊行している。

(田所 真)



上総国府推定地（村上説）周辺の遺跡

11. 山倉天王・堂谷貝塚

事業名 重要遺跡（貝塚）測量・確認調査

所在地 市原市山倉658ほか

調査期間 平成2年2月5日～平成2年3月31日

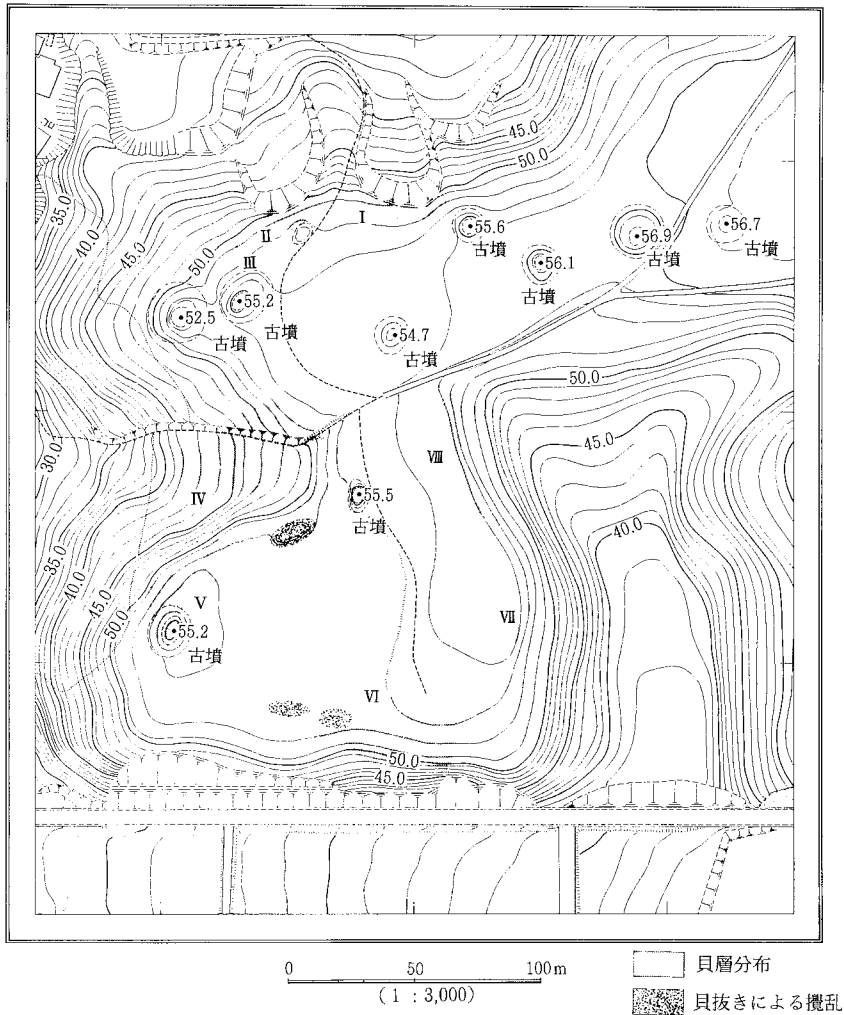
調査面積 調査対象37,500㎡

調査概要

〈現地踏査〉 現況はシノダケ・マダケを主とする山林である。地下レーダー探査の測線部分を伐採し、そのライン上で貝層の露呈している範囲とさらにボーリング棒を刺してとらえた貝層の範囲を確認し平面図を作成した。この結果、山倉天王・堂谷貝塚は小地点貝塚一箇所を含む8地点の貝塚で構成されており、その平面形態は環状貝塚を南北に二つ連結したいわゆるメガネ状貝塚に近く、その範囲は南北約250m、東西約150mに及ぶ。遺跡の保存状態は昭和62年に破壊された東側の谷部にかけての斜面貝塚（第Ⅶ・Ⅷ貝塚）以外は比較的良好であった。この破壊による被害状況は、北側部分で約半分、南側部分はその大部分に及んでいるものと思われる。また第Ⅰ・Ⅱ貝塚も人為的な土地改変によって一部削られている。昭和62年の破壊で露呈した貝層断面の記録写真によると、概ね2～3mの厚さの貝層が存在していることがわかっている。今回の踏査で明らかになって西側と南側の部分の貝塚についても同様にかかなりの厚さをもった貝層の存在が予想される。第Ⅳ・Ⅴ貝塚には盗掘および貝抜きによる穴が存在する。これを利用して貝層の断面を観察したが、この部分にもかなりの厚さで純貝層が堆積していることがわかった。第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ貝塚については遺物の表面採集を行った。未整理のため詳細は不明だが、北側の第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ貝塚に中期、南側の第Ⅴ・Ⅵ貝塚に後期の土器が多い傾向が見受けられた。また第Ⅴ・Ⅵ貝塚ではシカ・イノシシを主体とする保存状態の良好な獣骨片を多数採集している。第Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ貝塚について表面に露呈している貝類のサンプリングを行った。こちらも未整理のため貝類組成などについて詳しいことは言えないが、概ね北側の第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ貝塚の貝は小さく、南側の第Ⅴ・Ⅵ貝塚の貝はおおぶりのものが目立つ傾向にあった。

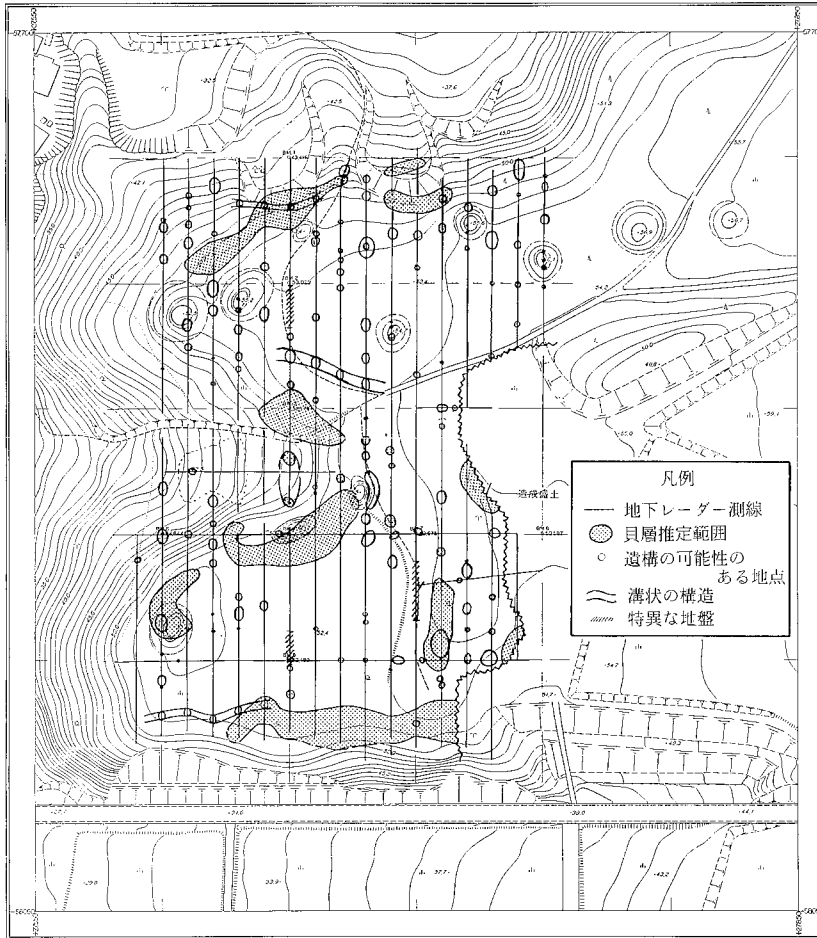
〈地形測量〉 現況が竹林・雑木林となっているため、航空測量のみでは地形測量図に不備が生じるため、現地での補備測量の結果を加え1,000分の1の地形図を作成した。貝塚の地形とともに、10ヶ所の古墳、北側に人為的な土地改変の状況が明らかにされた。

〈地下レーダー探査〉 基本的に南北方向に10m間隔の測線を設け、補足的に東西方向にも数本の測線を設定した。総測線延長距離は3,861mである。この結果、良好な貝層の堆積を示す連続した強い電磁波の反射が各所で認められ、10地点の大規模貝塚と6地点の小規模貝塚が確認された。

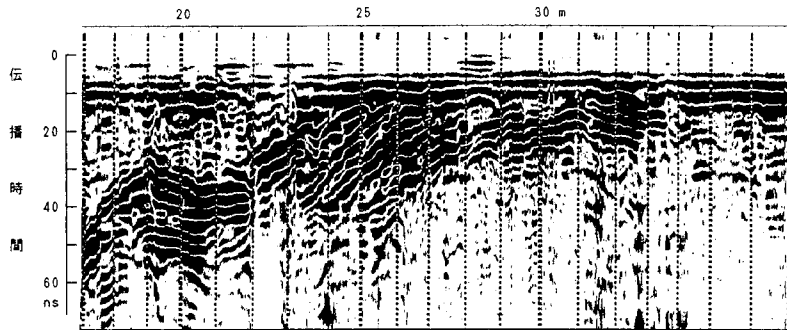


第1図 山倉天王・堂谷貝塚 現地踏査による貝層分布範囲

現地踏査の結果とそれほど大きな差はないが、踏査では発見できなかった貝層の存在が幾つか確認され、その平面形態はよりメガネ状に近い。また西側および南側斜面の貝層の上には表土がかなり厚く堆積している状況がとらえられている。また、貝層以外に遺構状のくぼみや溝状の遺構、特異な構造を示す箇所が幾つかとらえられている。(忍澤成視)



第2図 山倉天王・堂谷貝塚 地下レーダー探査による貝層分布範囲



17~33mにかけて貝層とみられる強い反射体が存在する。
 17~20m付近の貝層上面の深さは約100 cmである。

第3図 南側斜面貝層（第VI貝塚）の探査記録

12. ^{のう}能 ^{まん}満 ^{ぶん}分区 ^く貝塚

事業名 重要遺跡（貝塚）測量・確認調査

所在地 市原市能満2106ほか

調査期間 平成2年2月5日～平成2年3月31日

調査面積 調査対象30,000㎡

調査概要

〈現地踏査〉 現況は主として畑地である。実際に地表面に貝殻の散布している範囲を平面実測し、おおまかな貝塚の大きさと形態を把握した。この結果、能満分区貝塚は南北約130m、東西約150m、開口部を南東方向にもつ馬蹄形貝塚であることがわかった。しかし、地表面に露呈している貝殻はいずれも極めて細かく破碎された状態であり、また貝殻の散布している部分にボーリンク棒を刺してもしっかりとした貝層を形成しているという感触は得られない状況であり、貝塚の保存状態は必ずしも良好とはいえない。遺跡内には現在植木畑として利用されている箇所があり、植木の植えかえのために開けられた直径約2m程の穴が幾つかある。これを利用して貝層の段面を観察したところ、約20cm程の破碎貝の混貝土層と貝層下に遺物包含層が確認された。耕作などによる攪乱が貝層の下部まで及んでいる可能性がこの状況からも示唆される。遺跡全面にわたって、おおまかに地区を分けながら遺物の表面採集を行った。未整理のため地区ごとの遺物量・時期については詳細不明だが、概ね縄文中期から晩期に及ぶ時期の遺物が多量に採集された。

〈地形測量〉 セスナによる航空写真測量をもとに1,000分の1の地形図を作成した。

〈地下レーダー探査〉 基本的には東西方向に10m間隔で測線を設定し、これに沿って探査を行ったが、桑畑や植木の部分については、探査装置の通過が困難なため任意測線を設けた。総測線延長距離は3,254mである。結果は、地表面に貝殻は散布しているものの、良好な貝層の堆積を示す連続した強い電磁波の反射は認められず、大規模貝塚の存在を否定するかたちとなった。もともとそれほど厚く堆積した貝層で形成された貝塚でないうえに（せいぜい20～30cm程度の混土貝層～混貝土層であったものと思われる）後世の耕作や植木の植えかえなどによってかなり攪乱されてしまっているものとみられる。ただし、小規模な地点貝塚（住居跡、土坑、ピット内貝層）や遺構状のくぼみの存在は数箇所を確認されている。今後、測線をさらに細かいメッシュ（4～5m程度）で設定し、このような小規模な地点貝塚がどれくらいあるのかを確認する必要があると思われる。（忍澤成視）



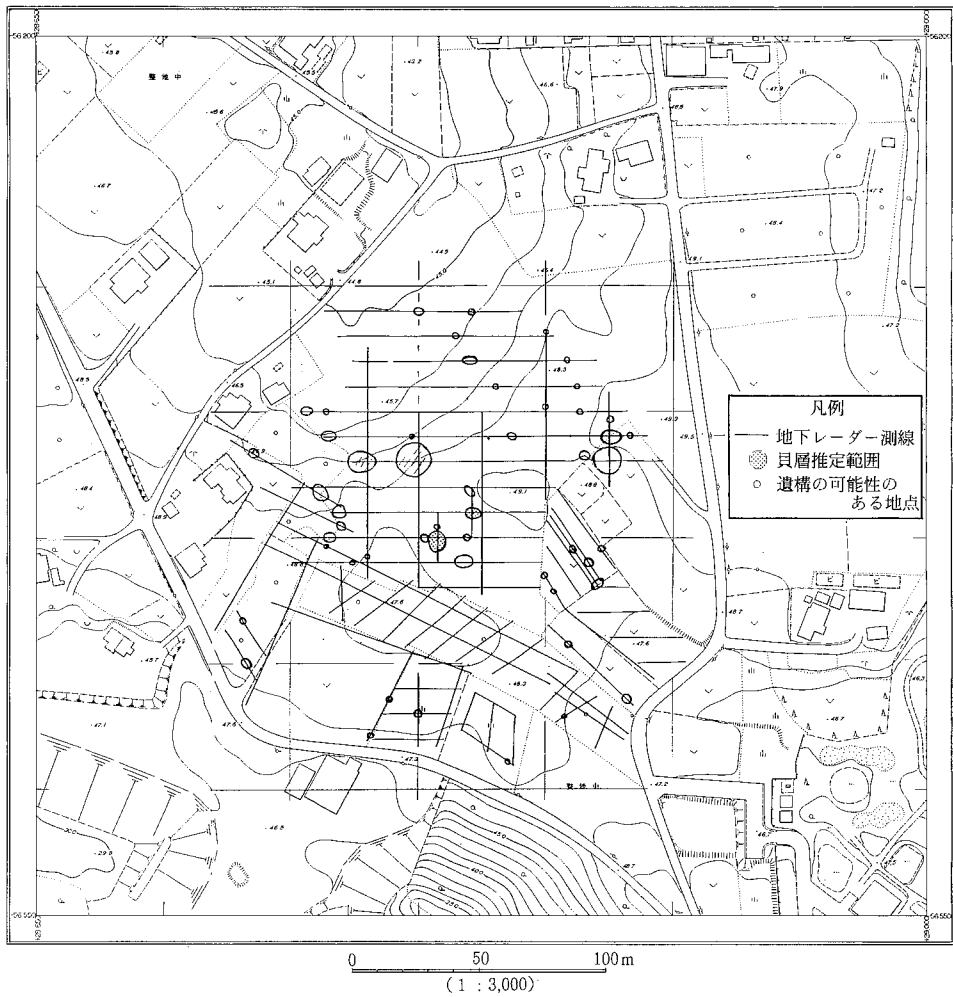
第1図 能満分区貝塚 現地踏査による貝層分布範囲



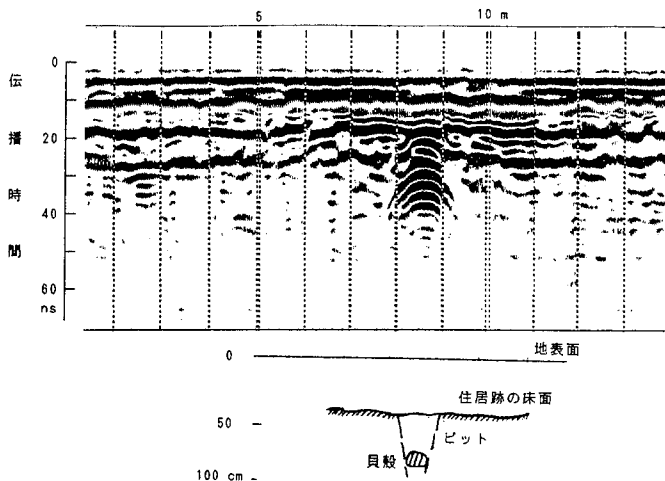
地下レーダー探査の作業風景



地下レーダー探査のデータ解析風景



第2図 能満分区貝塚 地下レーダー探査による貝層分布範囲



第3図 探査記録

7~11mの約4mにわたって15ns付近(深さ約40cm)に住居跡の床面とみられる反射面が明瞭に現われている。そのほぼ中央8.5m付近に小規模だが強い反射体があり、貝殻の詰まったピットの可能性が高い。ピットの幅は大きくても50cm程である。

重要遺跡（貝塚）の測量・確認調査

市では市内に存在する遺跡の保護を目的に、その範囲や内容を把握するために重要遺跡の測量・確認調査を実施することにした。平成元年度はその手初めとして、貝塚遺跡が対象となった。市原市は千葉県内でも有数の大規模貝塚の保有地であり、これまでに山倉・西広・祇園原貝塚などが調査されてきた。しかし未調査の貝塚もまだ多く、その規模や内容の把握は今後遺跡を保護していくためにも急務である。そこで本年は、遺跡の内容に最も未知の部分の多い山倉天王・堂谷貝塚と能満分区貝塚が選ばれることになった。

従来、貝塚の範囲確認調査は現地での貝層の露呈範囲やボーリング棒を地表から突き刺してその感触によって貝層の有無を判断して記録する方法によって行われてきた。しかしこの方法では、表土層が厚く覆われていてボーリング棒のとどかないような箇所では貝層を見逃す可能性があり、貝層の分布範囲を正確に把握することは困難である。また、部分的にトレンチを入れ、貝層の有無や規模を把握する方法もあるが、現地調査の労力や遺跡に加えるダメージ、さらに貝層部を発掘した後のサンプルの処理など後々に残す労力を考慮すると、良好な手段とは言い難い。今回確認調査を予定した山倉天王・堂谷貝塚、能満分区貝塚は調査対象面積が広大であり、これらの従来の方法ではその実体を正確に把握できる可能性は少ない。

そこで貝塚の範囲確認調査に有効な第三の方法が望まれるわけであるが、近年物理探査という非破壊で地下の状況を把握するという新手法が開発され、各地の色々な遺跡で利用されているが、この方法を導入した千葉市加曽利貝塚では貝塚の範囲確認に多大な成果を得たことを報告している。「史跡加曽利貝塚環境整備事前報告書」千葉市教育委員会・文化課 1988年

1 物理探査の種類

物理探査には地下レーダー探査・弾性波探査・電気探査・浅部電磁探査・高精度磁気探査・重力探査・リモートセンシングなどがある。これらの方法は対象物により、向き・不向きがあるが、貝塚の調査（貝層部分の検出）には地下レーダー探査、電気探査のうちの比抵抗マッピングが有効と考えられている。

2 地下レーダー探査、比抵抗マッピングの原理と探査結果

地下レーダー探査

地下レーダーは、電磁波を利用した地下探査法であり、地表から地下に向けて電磁波を放射し、その地下からの反射をとらえて地層の変化や反射体の分布を断面的に探るものである。地下レーダーによる反射パターンは貝層上を通過すると、まわりと全く異なる強い反射が貝層上面および貝層内部から表れる。これによって貝層の存在する範囲が検出でき、貝塚の境界を明確に指摘できる。ただし、検出できる貝層は純貝層・混土貝層のように貝の密度が高く、ある

程度層に厚みがあるものであり、混貝土層や薄い貝層についてはとらえきれない。

比抵抗マッピング

地表面に電流電極と電位電極を一定間隔を隔てて差し込み、電流電極から地中に電流を流し、そのときの電圧降下を電位電極で測定することによって、地盤の比抵抗を測ることができる。比抵抗マッピングは、測定地表面上に設定した格子点ごとに行い、地盤の比抵抗分布を面的に把握するものである。比抵抗マッピングは地下レーダーとは異なり、貝層そのものより貝層を包含する土の特性をとらえており、その点で間接的に貝層の分布を把握することになる。主に貝層からの溶脱イオンによって土の比抵抗が変化するため、純貝層・混土貝層・混貝土層までを含めた範囲が比抵抗マッピングではとらえられることになる。

3 地下レーダー探査の採用

比抵抗マッピングによって表れる貝層分布範囲は、一般に地下レーダー探査によるものより広く表れるという傾向がみられる。これは主体となる純貝層・混土貝層の周辺に混貝土層や現在溶解しつつある貝層の痕跡が存在することを示すためである。実際より広く表された範囲が当時はそこまで貝層であった範囲を示すのか、それとも本体の貝層から溶解し周辺の土に影響を及ぼしている範囲を示しているのか、解釈の仕方で貝層のとらえ方が違ってくるが、経費的な面（比抵抗マッピングによる探査では1m間隔格子毎が有効であり、測点が多い分費用がかさむ）も考慮して、今回の貝塚の確認調査に際しては地下レーダー探査を採用した。

4 地下レーダー探査による測線の設定

地下レーダー探査による測線の設定は、加曽利貝塚の調査結果から5m間隔で東西・南北二方向とるのが最も有効であるとみられている（住居跡内などに堆積した小規模な地点貝塚をもとらえられるため）。しかし今回の範囲確認調査の最大の目的は、大型貝塚の形態・規模の把握にあるため、協議の結果、10m間隔一方向の測線でも充分有効であると考え（予算的制約も踏まえて）、山倉天王・堂谷貝塚は南北方向に約4,000m、能満分区貝塚は東西方向に約3,000m、さらに必要に応じて補助線を設けることとし、総測線延長距離を約7,000mに設定した。

5 現地での作業内容

まず、貝塚の立地環境を把握するために地形測量を行う。つぎに、地下レーダー探査の測線の設定の基準となる基準点測量を行い50mメッシュの基本杭を設定する。そしてこの基本杭を軸に南北・東西方向に10m間隔の測線を設定し、その範囲を地下レーダー探査の装置がスムーズに通過できるように環境整備（草刈、枝はらいなど）し、地下レーダー探査の作業にはいる。この結果をもとに、1,000分の1の地形図上に貝層の分布範囲を記録する。さらにこの結果との比較資料とするため、現状での貝層の露呈範囲、ボーリング棒による貝層の確認範囲を、現地踏査による貝層分布として地形図に記録する。 (忍澤成視)

13. 喜多徒士橋遺跡(1次)

事業名 市内遺跡群発掘調査(確認調査)

宅地造成(喜多地区)に伴う埋蔵文化財調査(本調査)

所在地 市原市喜多字徒士橋771番地1他

調査期間 平成元年7月18日～平成元年7月26日(確認調査)

平成元年12月7日～平成元年12月27日(本調査)

調査面積 2,639㎡のうち264㎡(確認調査)、2,639㎡(本調査)

調査概要 遺跡は標高および60m、東に村田川に合流する喜多川が形成する台地上に位置している。

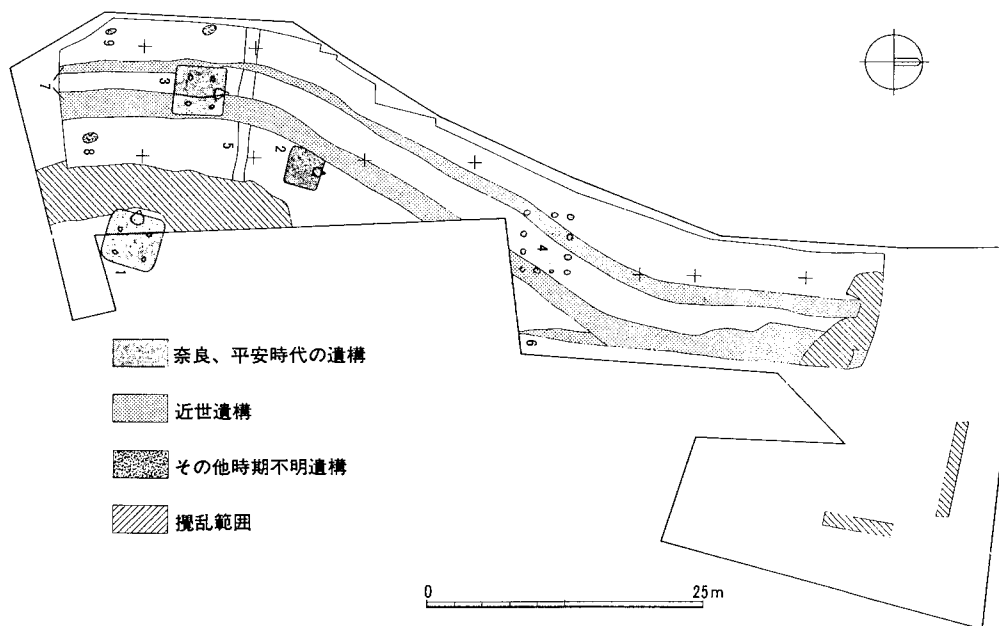
この遺跡の所在する台地上の調査は今回が初めてであり、周辺遺跡との関係はまったくの未知数であったが、確認調査の結果トレンチ内からは各種遺構が、調査区域東側の削平箇所では竪穴住居跡の断面などが観察されたことから、本調査を実施することとなった。

本調査の結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟、近世宝永の火山灰を含む道路状遺構1条、溝1条、時期不明土壌3基が検出された。また、1号遺構と3号遺構の間に地割れ状の攪乱範囲が存在し、3号遺構は地震に遭遇しているものと推定された。

報告書はすでに刊行されており、詳細は下記を参照願いたい。

(木對和紀)

『市原市徒士橋遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第38集 1990年



喜多徒士橋遺跡(1次)本調査全体図

14. 喜多徒士橋遺跡(2次)

事業名 不特定遺跡

所在地 市原市喜多字徒士橋780-1・3・4・7

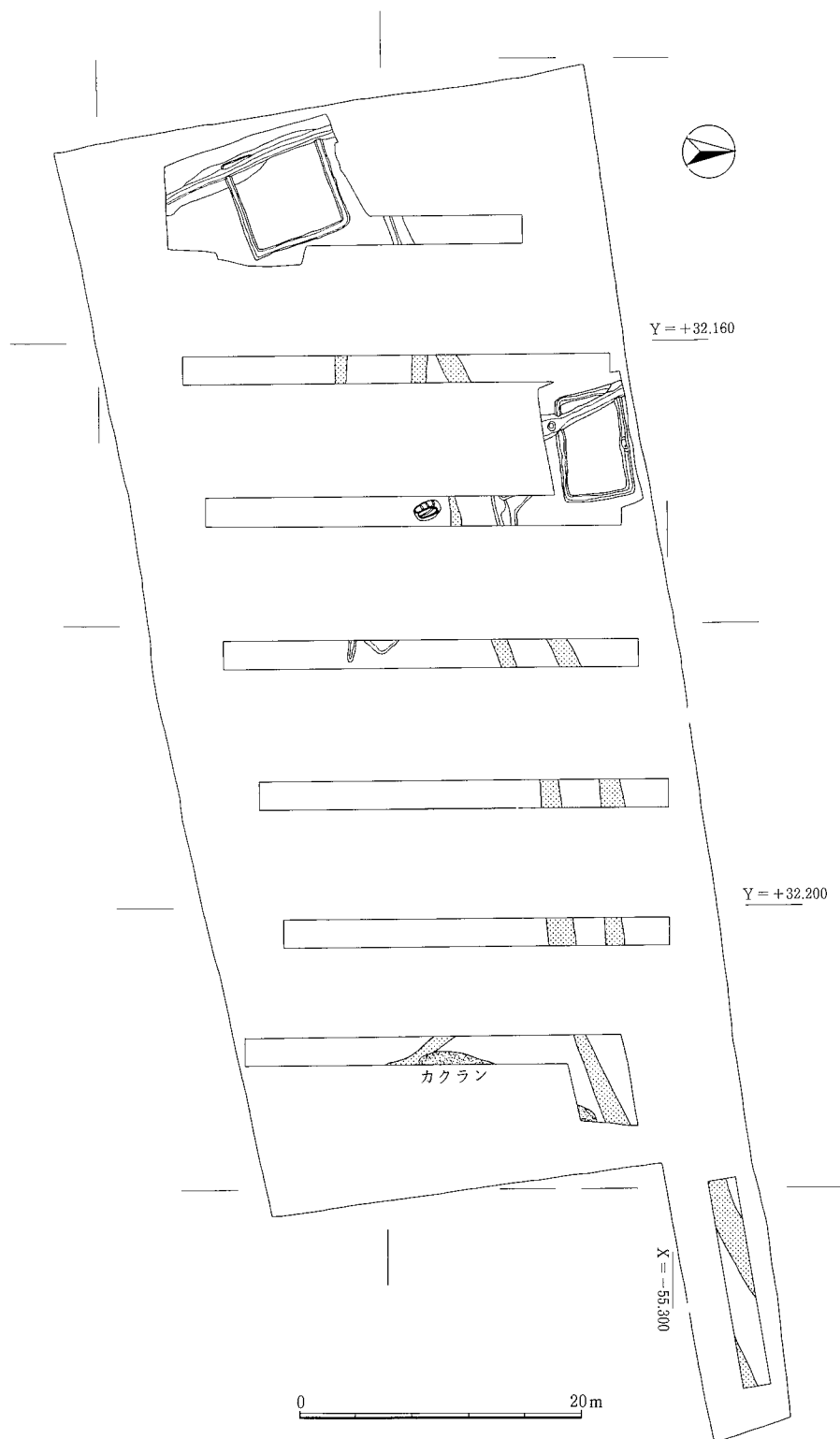
調査期間 平成2年1月29日～平成2年2月8日

調査面積 2,920㎡

調査概要 喜多徒士橋遺跡2次調査区は、当年度実施された1次調査区南西側に隣接する。調査は、調査対象面積の10%についてトレンチを設定して実施した。この結果、硬化面をとまなう溝状遺構と、方墳(方形周溝状遺構)2基が検出され、このうち方墳2基について本調査を実施した。1号墳は、南北長軸長7.22m(周溝外縁)、6.48m(周溝底面内縁)、短軸長7.12m(周溝外縁)、2号墳は、東西長幅長7.72m(周溝外縁)、7.0m(周溝底面内縁)、短軸長4.94m(周溝外縁)、4.12m(周溝底面内縁)を測る。ともに墳丘、主体部は未検出である。他に、地下式土壇墓1基について調査を行ったが、これについては、調査終了間際にその性格が判明したため、分布の有無をとらえることができなかった。(大村 直)



第1図 喜多徒士橋遺跡位置図(1/5,000)



第2図 喜多徒士橋遺跡2次全体図

15. 姉崎上野合遺跡

事業名 市内遺跡群発掘調査（確認・A区本調査）・不特定遺跡（B・C区本調査）

所在地 市原市姉崎字上野合1818-1他

調査期間 平成元年7月27日～平成元年7月31日（確認調査）

平成元年8月1日～平成元年8月30日A区（本調査）

平成2年2月9日～平成2年2月23日B区（本調査）

平成2年3月1日～平成2年3月10日C区（本調査）

調査面積 1,270㎡

調査概要 遺跡は標高およそ5m、県下でも有数の大型前方後円墳を保持する姉崎古墳群の中にあり全長およそ110m、群中第3位の規模を誇る姉崎二子塚古墳の西約100mの地点に存在する。

遺跡は縄文時代後～晩期における海退現象を境として陸地化した浜丘上に位置する為、基本層序がすべて砂によって構成されており、当初遺構確認は困難な作業かと考えられた。しかし、遺構覆土はすべて有機質泥砂によって覆われており、比較的遺構確認は容易であった。

確認調査の結果、調査対象地域内全域に遺構が存在することが判明し、引続きA地点の本調査を市内遺跡群発掘調査として実施し、B・C地点については後日、不特定遺跡として本調査を行った。

A～C地点の本調査の結果、古墳2基・竪穴住居跡4軒・竪穴状遺構1基・溝2条・道路遺構2条が検出された（平成元年度市原市内遺跡群発掘調査報告掲載9号遺構はB・C地点本調査の結果、竪穴住居跡ではなく道路遺構と判明）。

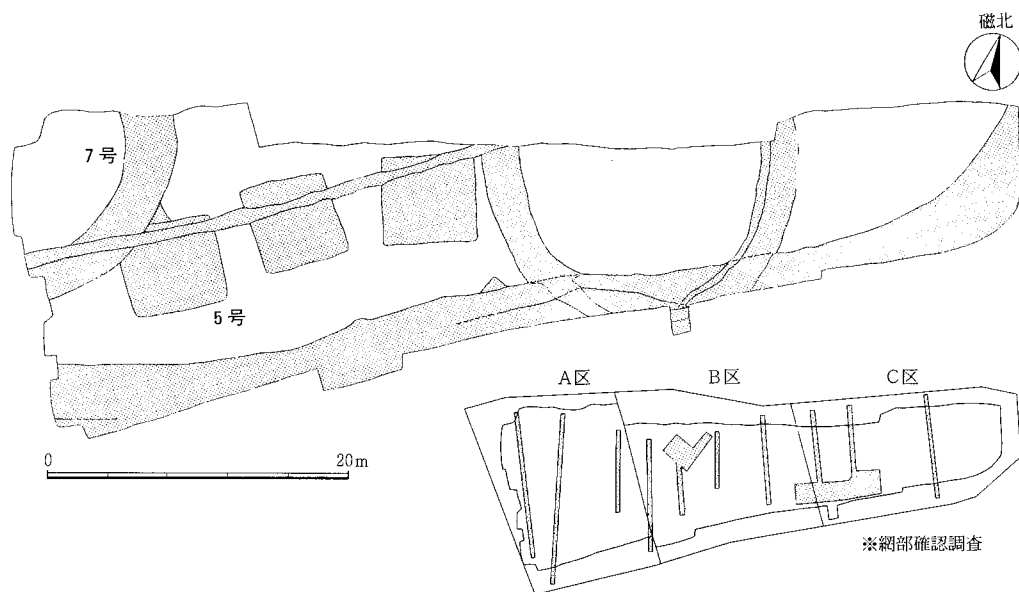
A地点検出円墳及び竪穴住居跡4軒は、検出された遺物からいずれも古墳時代中期和泉式期に比定することができる。またB・C地点にまたがって検出された円墳は、覆土上層中に多量の埴輪片を検出するものの（B種横ハケを含む）、下層からは殆ど遺物が検出されないことから遺構に直接伴うものとは考えにくく、本墳の時期確定は困難であった。

A地点検出竪穴状遺構は円墳と竪穴住居跡に削平されて存在し、遺構内からは遺物がまったく検出されなかったが、付近から安行Ⅱ式期の遺物が検出されている。

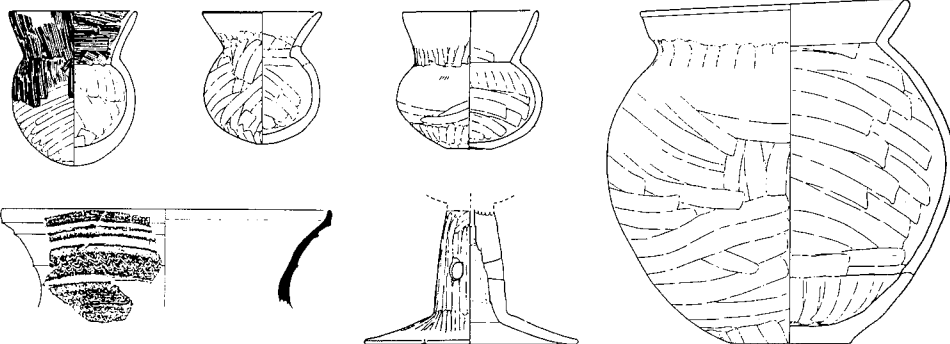
A地点検出古墳及び竪穴住居跡3軒を横断する溝は、いずれの遺構よりも新しい時期の遺構であることが土層断面より判明しているが、本跡に直接伴う遺物に恵まれなかった。

また2基重複して検出された道路遺構の一方の覆土上層からは宝永の火山灰が検出され、比較的新しい時期の遺構であることが判明している。

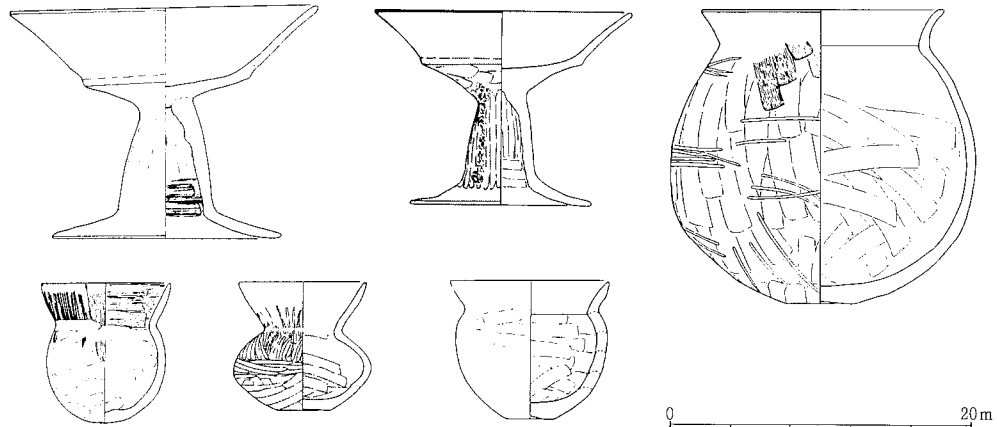
尚A区については、市原市教育委員会によりすでに報告書刊行済である。（木對和紀）



7号遺構（古墳周溝）



5号遺構（住居跡）



上野合遺跡全体図およびA区出土土器

16. 潤井戸上横峰遺跡

事業名 市内遺跡群発掘調査

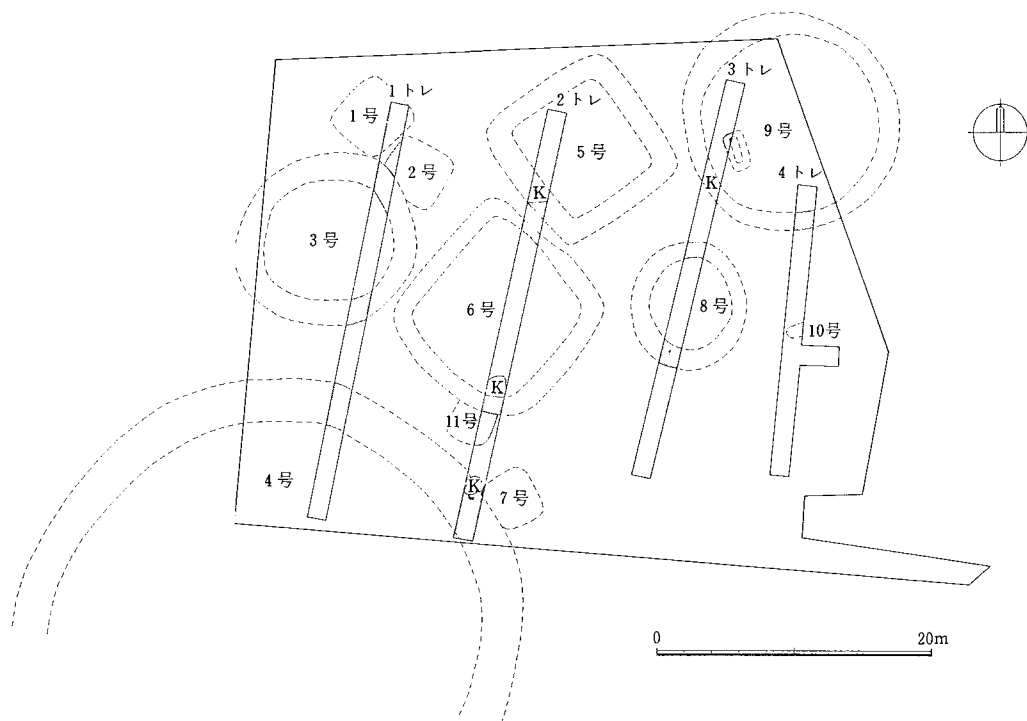
所在地 市原市潤井戸字上横峰617-4他

調査期間 平成元年7月10日～平成元年7月17日

調査面積 1,633㎡のうち163㎡

調査概要 遺跡は村田川海岸、標高およそ38mの舌状台地の先端部に位置し、下野遺跡群（下野寺谷古墳群）の一面を占める遺跡でもある。調査は対象面積1,633㎡の10%にあたる163㎡に対して行われた遺構確認調査であり、この結果、遺構は最も遺存状態の良い所でも何らかの形で攪乱を受け、一部はハードローム層以下に達する削平を受けていた。遺跡そのものの遺存状況は必ずしも良好とは言えないものの、対象地域ほぼ全域にわたる遺構が確認されている。

今回の調査によって確認された遺構は、古墳（周溝墓）6基・住居跡4軒・土壇1基であり、このうち古墳（周溝墓）の一部を精査し、性格・状況を把握した。（木對和紀）



潤井戸上横峰遺跡遺構配置図

17. しいづちゃのき遺跡

事業名 市内遺跡群発掘調査（確認調査）

宅地造成（椎津地区）に伴う埋蔵文化財調査（本調査）

所在地 市原市椎津茶ノ木545

調査期間 平成元年7月18日～平成元年7月26日（確認調査）

平成元年1月4日～平成2年3月31日（本調査）

調査面積 2,639㎡のうち264㎡（確認調査）

調査概要 遺跡は標高29m、東に東京湾を眼下とし西に椎津川を狭んで姉崎神社の社を望む舌状台地上に位置している。遺跡は椎津城址の一角を占めており、また石枕が出土したと言い伝えられている椎津稲荷山古墳が現存している。

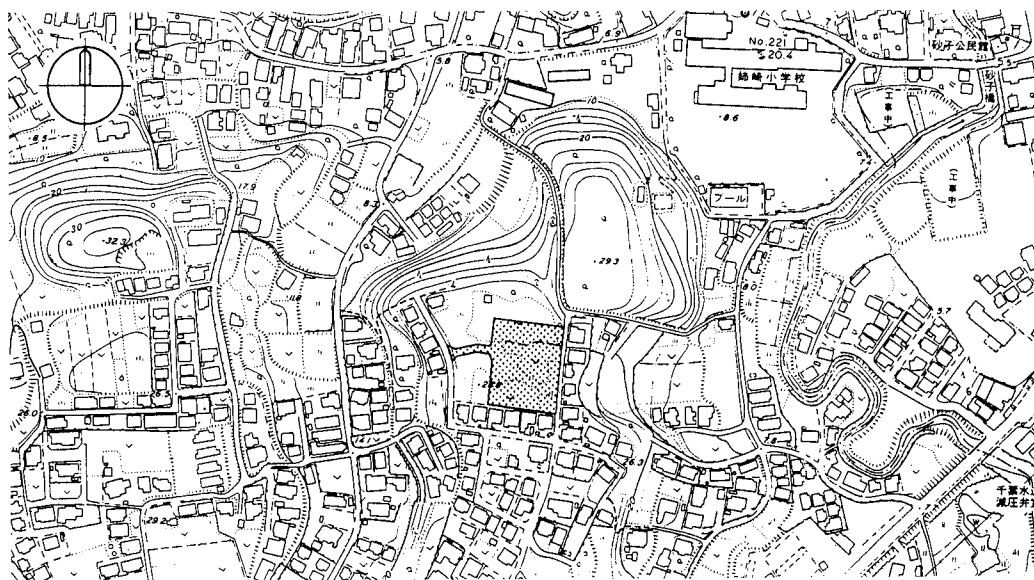
対象面積2,639㎡の10%である264㎡に対して行なわれた確認調査では、古墳周溝や貝ブロックの他に竪穴式住居跡多数が、調査区域全域にわたって検出された。また、検出された遺物が、弥生時代から奈良・平安時代に亘るものであったことから、きわめて多岐におよぶ遺構の存在が予測された。

本調査は、調査対象全域を対して、平成2年度に継続して実施された。その内容は、確認調査の結果を反映するものであった。

報告書はすでに刊行されており、詳細は下記を参照されたし。

（木對和紀）

『市原市椎津茶ノ木遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第49集 1992年



椎津茶ノ木遺跡周辺地形図（1/5,000）

18. 史跡 ^{かず さ こく ぶん し}上総国分寺跡

事業名 史跡整備に伴う史跡上総国分寺跡確認調査

所在地 市原市惣社字壱町畑926-2番地他

調査期間 平成2年2月19日～平成2年3月31日

調査面積 410㎡

調査概要 史跡地内の無許可による現状変更（国分寺参道新設）にかかる毀損状況と、環境整備事業に必要な基礎資料収集のために実施した上総国分寺（僧寺）の遺構確認調査である。

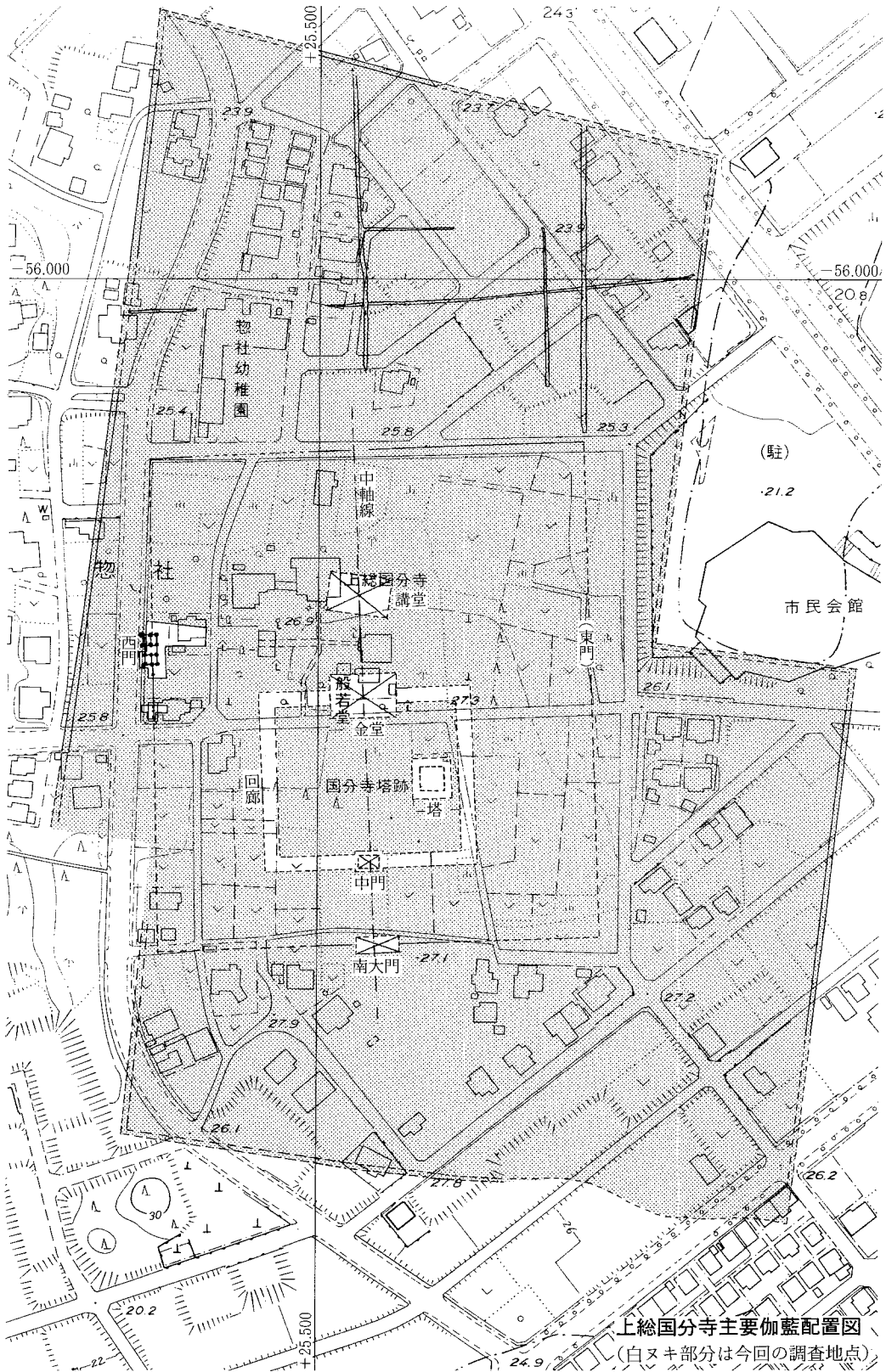
環境整備関連調査の第1期分（国分寺跡西辺部）として二か年度にわたって実施したものである。平成元年度（第1次調査）では、現国分寺の新設参道部分を中心とし、併せて昭和43年度調査（千葉県教育委員会『上総国分寺』昭和48年）で確認されていた「西方建造物址」の再調査などを実施した。また、平成二年度には、国分寺跡西辺部全域を対象として、伽藍地西側築地塀等ならびに関連諸施設の有無の確認を実施している。

調査の方法は、30×30mの大グリッドを仮定し、この大グリッドを3×3mの小グリッドに区画して発掘した。ただし、新設参道については毀損状況の確認という観点から、全面的に遺構の確認調査を実施した。なお、当該部分の毀損状況は、簡易舗装道路の短時間による施工であったことから、通常の遺構確認面（ソフトローム上面）を場所により10cm～15cm程度掘り下げに留まっていたため、遺構そのものが掘り込みの深いものであったことなどが幸いして、湮滅は免れたものと推測される。尚、この毀損状況の確認調査段階において、調査区西部分に、上総国分寺跡の遺構と考えられる掘立柱建物の一部が検出されたため、「西方建造物址」との関係を把握するために調査区を南に拡張した。「西方建造物址」部分については、昭和43年調査時の埋め戻土の除去による規模と位置の確認のみを実施し、新たな掘り下げ等を行っていない。

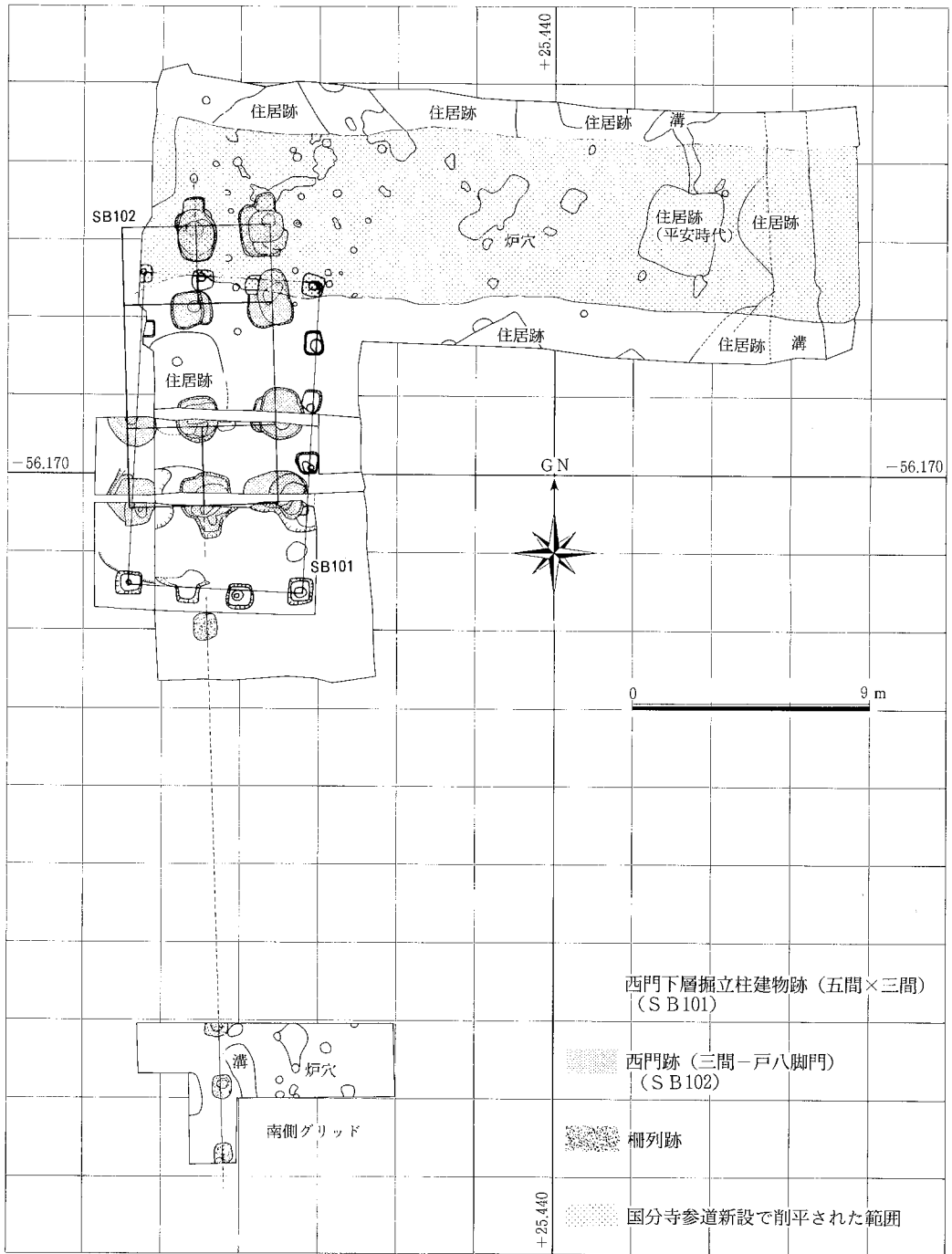
上記の他、調査区南側に新たにグリッドを設定し、南側の遺構の状況について確認した。

調査の結果は、次のとおりである。

- (1) 「西方建造物址」とされてきた遺構は、国分寺西門（三間一戸の八脚門）とこれに先行する桁行五間・梁行三間の掘立柱建物1棟である。
- (2) 国分寺西門には、A・B二期の掘立柱建物があり、ほぼ同一地点に同一規模で建て替えられている。
- (3) 南側グリッドに南北列の柵列（柱穴3）が検出されており、柱筋が国分寺西門の棟筋とほぼ一致する。
- (4) その他の遺構



上総国分寺主要伽藍配置図
 (白ヌキ部分は今回の調査地点)



- 縄文時代 …………… 炉穴 3、落とし穴 1 (早期)
- 古墳時代 …………… 竪穴式住居跡 9 (前期)、土坑 3、溝 2
- 奈良～平安時代 …… 土坑 1、柱穴 8、竪穴式住居跡 1
- 中～近世 …………… 溝 2

〔国分寺西門下層掘立柱建物（S B101）〕

S B101は、桁行五間・梁行三間の南北棟の掘立柱建物である。柱掘り方の切り合い関係によって、S B102遺構に先行することが明らかである。推定される建物規模は、桁行12.00m(40尺)梁行6.75m(22.5尺)であり、東側柱列によって復原される建物の向きは座標北に対して約3度東へ振るもの(以後N-3°-Eと表記)である。柱間寸法は、梁行が2.25m(7.5尺)等間であるのに対して、桁行は等間とならず、北側脇間から中央間までの三間が2.40m(8尺)等間・中央間南側隣接間1.65~1.80m(5.5~6尺)と狭く・南脇間は3.00~3.25m(10~10.5尺)と広いものに復原される。建物の用途に関連する構造であろう。建替えは、認められない。

〔国分寺西門（S B102）〕

S B102は、桁行三間・梁行二間の南北棟の掘立柱建物である。想定される金堂と講堂との中軸線上の距離(芯々間距離約45m・150尺)のほぼ中央から、西側に90m(300尺)の地点に、建物東側の側柱列が位置している。S B101の北側約2.80mに建替えたものである。推定される建物規模は、桁行10.80m(36尺)梁行5.70m(19尺)であり、棟通りによって復原される建物の向きはN-2°-Wであり、僧寺伽藍中軸線の方位に近似している。想定柱間寸法は、梁行が2.85m(9.5尺)等間であるのに対し、桁行は中央間4.80m(16尺)・脇間3.00m(10尺)と中央間が広い。三間一戸の八脚門である。柱掘り方から一度の建替えが認められている(A期・B期)が、同一地点にほぼ同一の規模で建替えられている。使用された柱の径は0.5mである。

上総国分寺の門は、西門のほか僧寺南大門と中門、尼寺中門・東門・西門Ⅰ・西門Ⅱ・北門の八ヶ所の門が知られている。この内、僧寺南大門と尼寺北門を除く六ヶ所の門は八脚門であった。今回の調査で明らかとなった僧寺西門は、これらの六ヶ所の八脚門の中では間口が最も広いものであった。尼寺西門が僧寺等への通路として最終段階まで残るとの指摘を踏まえるならば、未調査の僧寺東門に検討の余地を残しつつも中門を凌ぐ西門の規模に、その存続期間と併せて、歴史的位置付け(西門の外に何かがあるか等を含む)を、問いかけていく必要がある。僧寺西門A期を尼寺尼坊変遷のBⅡa期、B期をBⅡb期とし、S B101遺構を尼坊変遷のBⅠ期としておきたい。尼坊変遷が、僧寺にも適用すると仮定して。

※参考資料 宮本敬一『上総国分尼寺東門址と周辺の調査概要』

(田所 真)



上総国分寺西門跡（南側より）

19. 史跡^{かず}上^さ総^{こく}国^{ぶん}分^じ寺^{やくしどう}跡^{やくしどう} (薬師堂)

事業名 国分寺薬師堂解体修理に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市総社911・907-1

調査期間 平成元年7月1日～平成元年10月11日

調査面積 470㎡

調査概要 上総国分寺は、主要伽藍を中心として、48,177.02㎡が史跡指定を受けており、その指定地内に(現)国分寺がある。江戸期に建造された国分寺薬師堂は、老朽化が激しく、解体修理を実施することとなった。しかし、薬師堂の位置する地点は、上総国分寺跡の中門、金堂、講堂を結ぶ中軸線と一部重複しているため、将来の史跡整備との関係からも、これを移築することが必要となった。今回の調査は、薬師堂およびその東側隣接地のうち470㎡を対象として、確認調査を実施した。

調査の結果、金堂基壇回りの整地層、性格不明の掘立柱遺構などが検出された。

(大村 直)

20. 大^{おお}厩^{まや}浅^{せん}間^{げん}様^{さま}古^き墳^{ぼん}

事業名 宅地造成工事(大厩地区)に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市大厩字川上1395-1 他

調査期間 平成2年1月1日～平成2年3月31日

調査面積 1,430㎡

調査概要 大厩浅間様古墳は、墳丘裾部南北径約45mを測る前期の円墳である。調査は、昭和59年度に着手されたが、埋葬施設等の調査を実施したのち、中断していた。

昭和59年度の調査では、3基の埋葬施設が検出されたが、これらはいずれも無墓坑の割竹形木棺の直葬と考えられている。このうち1号主体部は、主軸長10.7mを測る長大なものであり、珠文鏡1、石釧1、刀子1のほか、瑪瑙製勾玉、琥珀製勾玉、琥珀製棗玉、管玉、ガラス製小玉など多量かつ多様な玉類の出土をみている。

今回の調査は、平成2年度に継続し、主に墳丘部および下層を対象としておこなわれた。盛土は、厚さ6.95mで4回の工程から築かれていたことが判明した。

概要については、下記文献によられたし。

(大村 直)

浅利率一「(大厩)浅間様古墳」『市原市文化財センター年報 昭和59年度』1985年

浅利率一「大厩浅間様古墳」『第6回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』1991年

21. 道^{どう}生^{じょう}堀^{ぼり}遺跡

事業名 飯給農道4号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市飯給字原157-1他

調査期間 平成元年11月16日～平成2年1月16日

調査面積 1,020㎡

調査概要 遺跡は、養老川上流部右岸の、標高約80mを測る段丘面上に立地する。

調査は、確認調査ののち、ほぼ全域を対象として本調査へ移行した。結果、縄文時代後期掘之内式期の竪穴住居跡1軒、陥し穴、小土坑群などの遺構を検出するとともに、比較的多数の遺物の出土をみた。

調査対象範囲が限られていたため、集落としての全容は明らかではないが、調査例の乏しい、養老川上流域の遺跡分布に、新たな知見を得ることができた。 (大村 直)

22. 青^{あお}柳^{やき}塚群

事業名 青柳特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市青柳字円馬戸2212他

調査期間 平成元年4月1日～平成元年6月30日

調査面積 塚4基

調査概要 遺跡は、標高約3mの海岸平野上に立地する。

調査は、昭和63年10月15日に着手され、本年度に継続して実施された。対象の塚群は、総数で11基であり、昭和63年度に7基、本年度は4基の調査をおこなった。調査方法は、トレンチを設定し、祭祀等の痕跡が認められた場合、当該部分を拡張するということがあったが、裾部で炭窯を検出したことをのぞき、いずれのトレンチにおいても、具体的な痕跡を認めることができなかった。

遺物は、表層近くで近世の所産と考えられる陶器片などが出土した他、若干量ではあるが、縄文時代早期末の条痕文系、弥生時代後期から古墳時代前期を中心とし、奈良・平安時代など、比較的各期にわたる。

すでに、報告書が刊行されている。詳細は、下記によられたし。 (大村 直)

高橋康男『青柳塚群』財団法人市原市文化財センター調査報告書第36集 1990年

IV 平成元年度 受贈図書一覧

書名	寄贈者	受入日
財団法人君津都市文化財センター発掘調査報告書第9・27・28・33・35・36・37・38集	(財)君津都市文化財センター	1. 4. 10
(財)大阪文化財センター通信No.1・2	(財)大阪文化財センター	
日置荘遺跡(その1～4)	同 上	
小阪遺跡(その5～7)	同 上	
丹上遺跡(その3・5)	同 上	
久宝寺南(その1)	同 上	
下川津遺跡	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	
西方遺跡	同 上	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第80集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
埋文群馬No.1～4	同 上	
お伊勢山遺跡の調査 第3部 縄文時代	早稲田大学所沢校地埋蔵文化財調査室	
三ツ堀六畝遺跡	野田市郷土博物館	
備中国府跡	総社市教育委員会	
東京都板橋区徳丸高山遺跡調査報告	板橋区徳丸高山遺跡調査団	
國學院大學考古学資料館紀要第5輯	國學院大學考古学資料館	
埼玉県立博物館紀要15	埼玉県立博物館	
埼玉県立博物館館有資料目録V	同 上	
調布市埋蔵文化財調査報告22・25	調布市教育委員会	
椿井大塚山古墳と三角縁神獸鏡	京都大学文学部考古学研究室	
流山市埋蔵文化財調査報告Vol.7～10	流山市教育委員会	
昭和63年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書	佐倉市教育委員会	
房総風土記の丘だより第17号	千葉県立房総風土記の丘	
上総博物館報第67号	千葉県立上総博物館	
展示解説シートNo.4～6	調布市郷土博物館	
郷土ウォッチングNo.2	同 上	
特別展関野準一郎版画の世界	同 上	
埋蔵文化財愛知No.16	(財)愛知県埋蔵文化財センター	
わらびてNo.43	岩手県立埋蔵文化財センター	
滋賀埋文ニュース第108号	滋賀県埋蔵文化財センター	
資料館解説シリーズ18	沼津市歴史民俗資料館	
資料館だよりVol.14No.6	同 上	
資料館だより創刊号	各務原市歴史民俗資料館	
調布市埋蔵文化財調査報告22・25	田中清美	
小沼耕地遺跡のあらまし	同 上	
湘南考古学同好会々報35	同 上	
名古屋市博物館だより67	名古屋市博物館	
熊本県文化財調査報告第73・75・79・86～89・93～96・98・100集	熊本県教育委員会	
新全国歴史散歩シリーズ12 千葉県の歴史散歩	山川出版社	1. 5. 18
月刊考古学ジャーナルNo.305	ニュー・サイエンス社	
弥生文化の研究1	雄山閣出版	
長沙馬王堆漢墓	田所 真	
中国歴史博物館 中国通史展示の解説	同 上	

書名	寄贈者	受入日
江戸遺跡研究会会報No.19 葦火19号 埋文あおもり第8号 山梨文化財研究所報第7号 埋文とやま第26号 元興寺文化財研究第31号 滋賀埋文ニュース第109号 所報吉備第6号 大分市歴史資料館ニュース第4～6号 大分市歴史資料館年報(1988) 國學院大學文学部考古学実習報告第17・18集 研究連絡誌第25号 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅳ 昭和63年度 栄町龍角寺確認調査報告書 銚子市余山貝塚確認調査報告書 木更津市上名主ヶ谷窯跡確認調査報告書 千葉県中近世城跡研究調査報告書第9集 千葉県歴史の道調査報告書8～11 千葉県重要古墳群測量調査報告書 山武地区古墳群(1) 大宮戸大新田第1地点調査報告書 大宮戸大新田第2地点調査報告書 粟島台遺跡一部確認調査報告書 西粟1号墳発掘調査報告書 下小野ひさご塚・丸塚発掘調査報告書 新林古墳発掘調査報告書 佐原市内遺跡群発掘調査概報Ⅲ 昭和63年度成田市内遺跡群発掘調査報告書 小見川町文化財報告第15集 昭和63年度東金市内遺跡群発掘調査報告書 我孫子市埋蔵文化財報告第12集 昭和63年度市内遺跡群発掘調査報告書 松戸市文化財調査報告第15集 船橋市内遺跡群発掘調査報告書 古作貝塚 第4次調査報告 夏見大塚(第4次) 千葉県八千代市埋蔵文化財発掘調査報告 市内遺跡群発掘調査報告 昭和63年度千葉市内遺跡群発掘調査報告書 昭和63年度袖ヶ浦町内遺跡群発掘調査報告書 君津市内遺跡群発掘調査報告書 常代遺跡群確認調査報告書 小滝涼源寺 宮平遺跡 佐久間遺跡 荒砥北部遺跡群発掘調査概報	江戸遺跡研究会 (財)大阪市文化財協会 青森県埋蔵文化財調査センター (財)山梨文化財研究所 富山県埋蔵文化財センター (財)元興寺文化財研究所 滋賀県埋蔵文化財センター 岡山県古代吉備文化財センター 大分市歴史資料館 同上 國學院大學文学部考古学研究室 (財)千葉県文化財センター 鹿児島大学埋蔵文化財調査室 千葉県教育委員会 同上 同上 同上 同上 同上 銚子市教育委員会 同上 同上 同上 佐原市教育委員会 同上 同上 成田市教育委員会 小見川町教育委員会 東金市教育委員会 我孫子市教育委員会 柏市教育委員会 松戸市教育委員会 船橋市教育委員会 同上 同上 八千代市教育委員会 同上 千葉市教育委員会 袖ヶ浦町教育委員会 君津市教育委員会 同上 朝夷地区教育委員会 山武考古学研究所 同上 同上	1. 5. 18

書名	寄贈者	受入日
山武考古学研究所年報No.5・6	山武考古学研究所	1. 5. 18
常陸国分僧寺跡発掘調査報告書	同上	
埼玉古墳群発掘調査報告書第7集	埼玉県立さきたま資料館	1. 5. 22
福谷城跡第3次発掘調査概要報告書	三好町教育委員会	
日南町教育委員会文化財報告書3	日南町教育委員会	
港郷土資料館だより第14号	港区教育委員会	
苫小牧市埋蔵文化財調査センター概要 昭和63年度	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	
とまこまい埋文だよりNo.16	同上	
柏原4遺跡	苫小牧市教育委員会	
いわき市埋蔵文化財調査報告第22・25冊	(財)いわき市教育文化事業団	
いわき市埋蔵文化財調査報告第19冊	いわき市教育委員会	
(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書3・5・10	(財)長野県埋蔵文化財センター	
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第125・127～135集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	
紀要IX	同上	
考古遺物資料集第9集	同上	
史跡松本城黒門枳形内発掘調査報告書	松本市教育委員会	
史跡松本城北外堀外側土塁発掘調査報告書	同上	
昭和63年度の中山地区発掘調査	同上	
三間沢川左岸遺跡(Ⅰ)	同上	
松本市文化財調査報告No.67・69～73・75～79・81	同上	
史館第21号	大村 直	1. 5. 29
栃木県小川町大森遺跡・谷田1号墳	矢野淳一	
貝塚博物館紀要第16号	千葉県立加曾利貝塚博物館	
昭和63年度船橋市郷土資料館年報	船橋市郷土資料館	
小田原市文化財調査報告書第25～29集	小田原市教育委員会	
日立市文化財調査報告第19・20集	日立市教育委員会	
赤羽横穴墓群	同上	
上手遺跡発掘調査報告書	北本市教育委員会	
展示図録 比企	埼玉県立博物館	
第20回企画展 六世紀の村	小山市立博物館	
群馬県立歴史博物館年報第9号	群馬県立歴史博物館	
埋文群馬No.5	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
年報7	同上	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第77・86・87集	同上	
荒砥天之宮遺跡	同上	
西今井遺跡 早川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	
西今井遺跡 一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	
考古資料図録IV	横須賀市自然人文博物館	
蛇谷遺跡	市原市教育委員会	1. 6. 7
ふるさと千葉の農林業	千葉県農業改良協会	
野田市文化財抄報8・9	野田市教育委員会	
昭和63年度野田市内遺跡群発掘調査報告	同上	
八王子市郷土資料館だよりNo.35・36	八王子市郷土資料館	
八王子千人同心史編集ニュースNo.4	同上	

書 名	寄 贈 者	受 入 日
解説シートNo.4 車人形について 写真が語る東京湾 消えた干潟とその漁業 大田区立郷土博物館だより第20号 博物館ノートNo.43~48 古道シリーズ4 せたがやの役道 世田谷区立郷土資料館史跡ガイド第1集 資料館だよりNo.10 世田谷区史料叢書第4巻 石井至毅著作集 埋蔵文化財調査報告 4 昭和63年度 大泉中里遺跡 稲荷山遺跡 堀北遺跡 扇山遺跡調査報告書 第4次調査 高稲荷遺跡	八王子市郷土資料館 大田区立郷土博物館 同 上 同 上 世田谷区立郷土資料館 同 上 同 上 同 上 同 上 練馬区教育委員会 同 上 同 上 同 上 同 上	1. 6. 7
日本考古学研究所集報XI 木田余台 房総風土記の丘年報12 特別展1989 稲と稲染め おおとねVol.11No.1 わらびてNo.44 神奈川県埋蔵文化財調査報告31 神奈川県文化財調査報告書第48集 浦和市立郷土博物館研究調査報告書第16集 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第83集 名古屋市立博物館だより68 各務原市資料調査報告書第10号 各務原市の石造物 滋賀埋文ニュース第110号 榛原町文化財調査報告第3・4集 むかし、むかしの榛原 埋蔵文化財ニュース64~66 宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第12集 市民考古学講座(第1~3講) 向日市埋蔵文化財調査報告書第25集 昭和60年度京都市埋蔵文化財調査概要 京都府埋蔵文化財情報第31号 京都府遺跡調査報告書第11冊 京都府遺跡調査概報第31・32冊 木ノ本釜山(木ノ本Ⅲ)遺跡発掘調査報告書 三重県高宮跡調査事務所年報1988 昭和62年度瀬戸市埋蔵文化財年報 埋文えひめ第9・10号 四国横断自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 鳥取埋文ニュースNo.23 鳥取県教育文化財団調査報告書24	日本考古学研究所 同 上 千葉県立房総風土記の丘 千葉県立大利根博物館 同 上 岩手県立埋蔵文化財センター 神奈川県教育委員会 同 上 浦和市立郷土博物館 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 名古屋市立博物館 各務原市歴史民俗資料館 滋賀県埋蔵文化財センター 榛原町教育委員会 同 上 奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター 宇治市教育委員会 同 上 (財)向日市埋蔵文化財センター (財)京都市埋蔵文化財研究所 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 同 上 同 上 和歌山市教育委員会 齋宮歴史博物館 瀬戸市教育委員会 愛媛県埋蔵文化財調査センター 同 上 鳥取県埋蔵文化財センター 同 上	1. 6. 13

書名	寄贈者	受入日
多良見町文化財調査報告書第6集	多良見町教育委員会	1. 6. 13
東京大学文学部考古学研究室研究紀要第7号	東京大学文学部	
MOUSEIONNo.34	立教大学学校・社会教育講座	
名古屋大学文学部研究論集104 史学35 考古学抜刷第4集	名古屋大学文学部考古学研究室	
考古学研究室報告甲種第5～7冊	国士舘大学文学部考古学研究室	
上総博物館報第68号	千葉県立上総博物館	1. 6. 14
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 1988年度	豊中市教育委員会	
猿投神社近世史料 續	豊田市教育委員会	
房総考古学ライブラリー4 弥生時代	(財)千葉県文化財センター	
奈良国立文化財研究所史料第30・32冊	奈良国立文化財研究所	
長崎県文化財調査報告書第93～95集	長崎県教育委員会	1. 6. 19
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 昭和62年度	千葉県教育庁文化課	1. 6. 20
埋蔵文化財関係事務様式集	同上	
富山県埋蔵文化財センター年報 昭和63年度	富山県埋蔵文化財センター	1. 6. 21
三谷遺跡・一ツ山古墳群	同上	
富山県小杉町・大門町小杉通事業団地内遺跡群 第9次緊急発掘調査概要	同上	
東海北陸自動車道遺跡試掘調査報告 福光町編	同上	
北陸自動車道遺跡調査報告 朝日町編4	同上	
古代史復元6	講談社	1. 6. 22
葦火20号	(財)大阪市文化財協会	
調布市郷土博物館だよりNo.31	調布市郷土博物館	
一宮市博物館特別展図録 尾張のもめん	一宮市博物館	
金大考古第16号	金沢大学文学部考古学研究室	
角間 金沢大学総合移転用地内埋蔵文化財調査報告	金沢大学総合移転実施特別委員会	
なりたNo.45	成田山霊光館	1. 6. 26
成田山ミニガイド8	同上	
専修考古学第4号	専修大学文学部考古学研究室	
浦和市遺跡調査会報告書第98・106・107・109・113集	浦和市遺跡調査会	
浦和市東部遺跡群発掘調査報告書第12集	同上	
滋賀文化財だよりNo.133～137	(財)滋賀県文化財保護協会	
紀要第2号	同上	
文化財調査出土遺物仮収納保管業務昭和63年度発掘調査概要	同上	
五条遺跡発掘調査報告書	同上	
尼子南遺跡発掘調査報告書	同上	
県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ-3	同上	
石田三宅遺跡発掘調査報告書I	同上	
錦織・南滋賀遺跡発掘調査概要Ⅲ	同上	
柿田遺跡発掘調査報告書	同上	
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅢ-4・ⅩⅥ-1～5	同上	
鴻巣市史資料編1 考古	鴻巣市史編さん室	1. 6. 27
茨城県教育財団文化財調査報告第47～52集	(財)茨城県教育財団	1. 7. 1
年報8	同上	
印旛郡栄町五丹歩遺跡	千葉県立房総のむら	
千葉県文化財センター十五年の歩み	(財)千葉県文化財センター	
平成元年度千葉市の文化行政	千葉市教育委員会文化課	

書名	寄贈者	受入日
和歌山県高野山遍照尊院	田中新史	1. 7. 1
広島県立埋蔵文化財センター年報 3	広島県教育委員会	
備後国府跡	同上	
明宮地廃寺跡 第3次発掘調査概報	同上	
五ヶ庄二子塚古墳昭和63年度発掘調査概報	宇治市教育委員会	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第84集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
高燥遺跡発掘調査報告書	八王子市教育委員会	1. 7. 3
半蔵窪遺跡調査報告書	同上	
八王子市遺跡地図	同上	
飛鳥・藤原宮発掘調査概報19	奈良国立文化財研究所	1. 7. 5
土浦市立博物館紀要第1号	土浦市立博物館	
愛知県埋蔵文化財情報 4	愛知県教育委員会	
年報 昭和63年度	(財)愛知県埋蔵文化財センター	1. 7. 7
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第6～9集	同上	
浜松市博物館だより Vol. 8 - 1 No.26	浜松市博物館	1. 7. 10
千葉県立中央博物館要覧	千葉県立中央博物館	1. 7. 11
加曾利貝塚	千葉県立加曾利貝塚博物館	
いわき市埋蔵文化財調査報告第26冊	(財)いわき市教育文化事業団	
吉野ヶ里・藤ノ木・邪馬台国 見えてきた古代史の謎	読売新聞社出版局 図書編集部	
近畿自動車道(久居～勢和間)埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ～Ⅴ	三重県埋蔵文化財センター	
三重県埋蔵文化財調査報告72～76	同上	
一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ	同上	
一級河川中村川埋蔵文化財発掘調査概要Ⅰ・Ⅱ	同上	
図説日本の古代 1	中央公論社	1. 7. 13
郷土の文化財 7・8	(財)長生郡市文化財センター	
茂原市文化財センター年報No. 3	同上	
文化財シリーズ第60～62集	板橋区教育委員会	
板橋区立郷土資料館年報第2号	同上	
展示図録 蘇える福谷城展	同上	
研究所報No.17～20	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	
静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要Ⅱ	同上	
静岡県埋蔵文化財調査研究所年報Ⅳ	同上	
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第13・14集	同上	
坂尻遺跡	同上	
三田遺跡発掘調査報告書	芝山町教育委員会	1. 7. 17
四街道市千代田12号墳発掘調査報告書	四街道市教育委員会	
四街道市の文化財15号	同上	
四街道市内遺跡群発掘調査報告	同上	
京都府埋蔵文化財情報第32号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	
江戸遺跡研究会会報No.20	江戸遺跡研究会	
長野県埋蔵文化財ニュースNo.27	(財)長野県埋蔵文化財センター	
長野県埋蔵文化財センター年報 5	同上	
第23回特別展 ゆれる大地	長野市立博物館	
年報 昭和62年度 Vol. 6	同上	

書名	寄贈者	受入日
沼津藩とその周辺 資料館だよりVol.15No.1	沼津市歴史民俗資料館	1. 7. 17
沼津市歴史民俗資料館資料集7	同上	
沼津市博物館紀要13	同上	
滋賀埋文ニュース第111号 滋賀文化財だよりNo.133~138	滋賀県埋蔵文化財センター (財)滋賀県文化財保護協会	
大宮遺跡発掘調査報告書	同上	
常陸国分僧寺跡発掘調査報告書	石岡市教育委員会	
開発行為に伴う発掘調査確認書(深久保遺跡)	同上	
宮平遺跡発掘調査報告書	同上	
宮平遺跡発掘調査概報	同上	
宮平遺跡確認調査報告書	同上	
総南博物館報第40号	千葉県立総南博物館	1. 7. 18
赤坂遺跡発掘調査報告書	平塚市教育委員会	1. 7. 20
第12回神奈川県遺跡調査・研究発表会 発表要旨	同上	
中里E遺跡発掘調査報告書	同上	
平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書1・2	同上	
平塚市埋蔵文化財調査報告書第6集	同上	
平塚市埋蔵文化財シリーズ5・7・8・10~13	同上	
八王子市郷土資料館だよりNo.37	八王子市郷土資料館	
上町遺跡C地点発掘調査報告書	古川町教育委員会	
埋蔵文化財愛知No.17	(財)愛知県埋蔵文化財センター	
名古屋市博物館研究紀要第12巻	名古屋市博物館	
三田遺跡発掘調査報告書	芝山町教育委員会	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第82集 研究紀要6	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 同上	
埋文とやま第27号	富山県埋蔵文化財センター	1. 7. 24
月刊考古学ジャーナルNo.308	ニュー・サイエンス社	
東京大学総合研究資料館ニュース16号	東京大学総合研究資料館	1. 7. 26
浦和市長郷土博物館館報第34号	浦和市長郷土博物館	
北九州市文化財調査報告書第47号	北九州市教育委員会	
五世紀の北九州 “倭の五王” 時代の国際交流	北九州市立考古博物館	
大宮市立博物館研究紀要第1号	大宮市立博物館	
大宮市立博物館解説シート第6集	同上	
わたしたちの博物館第16・17号	同上	
第6回企画展図録 チョモランマ登頂展	同上	
大宮の教育史調査報告書第4条	同上	
大宮の教育史調査概報(Ⅰ)	同上	
山の神遺跡	(財)浜松市文化協会	1. 7. 27
高槻市文化財調査概要XII	高槻市教育委員会	1. 7. 28
八王子市埋蔵文化財年報 昭和63年度	八王子市教育委員会	
富山市考古資料館報No.19	富山市考古資料館	
ひろしまの遺跡第37号	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	1. 7. 29
木曾森野遺跡 歴史時代編	町田木曾森野地区遺跡調査会	1. 7. 31
京都府遺跡調査概報第33・34冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	

書名	寄贈者	受入日
5年のあゆみ	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	1. 7. 31
京都府遺跡調査報告書第12冊	同上	
京都府弥生土器集成	同上	
名古屋市立博物館だより69	名古屋市立博物館	
石川れきはく第12号	石川県立歴史博物館	
一宮市博物館だよりNo.6	一宮市博物館	
一宮市博物館企画展 古墳のまつり	同上	
図説 千葉県の歴史	河出書房新社	1. 8. 2
釧路市材木町5遺跡調査報告書	釧路市埋蔵文化財調査センター	1. 8. 3
鳥取埋文ニュースNo.24	鳥取県埋蔵文化財センター	1. 8. 4
名古屋大学考古学陳列館だより第1号	名古屋大学文学部考古学研究室	
中野火口谷一号古窯跡	田中新史	1. 8. 7
氷上町埋蔵文化財発掘調査報告書第1冊	氷上町教育委員会	
資料館だよりVol.15No.2	沼津市歴史民俗資料館	
弁天貝塚Ⅲ	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	
とまこまい埋文だよりNo.17	同上	
苫小牧の埋蔵文化財〔貝塚編〕No.2	同上	
武蔵国分寺跡出土の漆紙文書 武蔵台遺跡	平川 南	1. 8. 11
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第90集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
長野市の埋蔵文化財第32~34集	長野市教育委員会	1. 8. 14
一般国道1号亀山バイパス埋蔵文化財発掘調査概要V	三重県埋蔵文化財センター	
国一バイパスだより20号 上椎ノ木古墳・上椎ノ木館址	同上	
レトロ・レトロの展覧会 1989	(財)滋賀県文化財保護協会	
平安京跡発掘調査概報	(財)京都市埋蔵文化財研究所	
鳥羽離宮跡発掘調査概報	同上	
長岡京跡・大藪遺跡発掘調査概報	同上	
京都市内遺跡試掘立会調査概報	同上	
大阪の埴輪窯	(財)大阪文化財センター	
北区埋蔵文化財調査報告第3~5集	北区教育委員会	1. 8. 17
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第88集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
港区No.19遺跡	港郷土資料館	
白金館址遺跡Ⅰ~Ⅲ	同上	
諏訪市埋蔵文化財調査報告第14集	田中新史	1. 8. 21
国指定史跡若宮大路発掘調査報告書	鎌倉市教育委員会	1. 8. 22
国指定史跡若宮大路遺跡発掘調査報告書Ⅱ	同上	
北条時房・顕時邸跡	同上	
新善光寺跡内やぐら発掘調査報告書	同上	
永福寺跡	同上	
睦沢町埋蔵文化財調査報告書第6輯	睦沢町教育委員会	
小山市立博物館報第6号	小山市立博物館	
小山市立博物館だより10	同上	
千葉城郭研究第1号	千葉城郭研究会	1. 8. 24
第53回展示 資料観覧の手びき	船橋市郷土資料館	
千葉県の石仏と仏像第32回郷土史講座講義録	同上	
資料館だより第46・47号	同上	

書名	寄贈者	受入日
安子島地区土地改良関連発掘調査報告書1	(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団	1. 8. 24
中山地区土地改良共同施行事業関連発掘調査報告書3	同上	
郡山東部9	同上	
葦火21号	(財)大阪市文化財協会	
山梨文化財研究所報第8号	帝京大学山梨文化財研究所	
史跡志波城跡保存管理計画書	盛岡市教育委員会	
志波城跡 昭和63年度発掘調査概報	同上	
大館遺跡群 昭和62年度発掘調査概報	同上	
安倍館・里館遺跡 昭和62年度発掘調査概報	同上	
小山遺跡群 昭和63年度発掘調査報告	同上	
上平遺跡群 昭和63年度発掘調査概報	同上	
盛岡市埋蔵文化財調査年報 昭和59年度	同上	
長野市立博物館だより第4号	長野市立博物館	1. 8. 28
愛知県陶磁資料館研究紀要7	愛知県陶磁資料館	
板橋の仏像	板橋区教育委員会	
わらびてNo.45	岩手県立埋蔵文化財センター	1. 9. 1
歴史群像特別編集 最新邪馬台国論	(株)学研	
国立歴史民俗博物館研究報告第19・20集	国立歴史民俗博物館	
平城京東市跡推定地の調査Ⅶ 第9次発掘調査概報	奈良市教育委員会	
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 昭和63年度	同上	
嵩久保一里塚	土浦市教育委員会	
(財)元興寺文化財研究所通信No.32	(財)元興寺文化財研究所	
別府大学付属博物館だよりNo.33	別府大学付属博物館	
記録并圖書扣帳	同上	
佐賀県遺跡概要図	佐賀県教育委員会	1. 9. 4
吉野ヶ里遺跡	同上	
山陰地域研究 伝統文化No.5	島根大学山陰地域研究総合センター	1. 9. 6
史跡隼上り瓦窯跡	宇治市教育委員会	1. 9. 12
江戸遺跡研究会会報No.21	江戸遺跡研究会	
日本文化財科学会第6回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	1. 9. 19
日本文化財科学会会報第7号	同上	
埋文えひめ第9・10号	同上	
(財)印旛郡市文化財センター年報3 昭和61年度	(財)印旛郡市文化財センター	
北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書Ⅺ	(財)滋賀県文化財保護協会	
矢倉口遺跡発掘調査報告書	同上	
東野館遺跡発掘調査報告書	同上	
一般国道8号(長浜バイパス)関連遺跡発掘調査報告書Ⅵ	同上	
宇曽川災害復旧助成事業に伴う妙楽寺遺跡Ⅲ	同上	
文化財教室シリーズ [10E] 近江の古鏡Ⅰ(総説)	同上	
東京都八王子市高燥遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	1. 9. 21
神奈川県川崎市風久保西遺跡発掘調査報告書	同上	
徳島市埋蔵文化財発掘調査概要1	徳島市教育委員会	
季刊明日香風第32号	桜井市教育委員会	1. 9. 25
専光寺付近遺跡 昭和63年度発掘調査概報	山武考古学研究所	1. 9. 26
宮平遺跡発掘調査報告書	同上	

書名	寄贈者	受入日
九十九里地域の古墳研究	山武考古学研究所	1. 9. 26
滝前・滝下遺跡発掘調査報告書	同上	
別府大学付属博物館だよりNo.34	別府大学付属博物館	1. 9. 28
さきたまNo.1	埼玉県立さきたま資料館	1. 10. 6
資料館だよりVol.15No.3	沼津市歴史民俗資料館	1. 10. 13
埋文とやま第28号	富山県埋蔵文化財センター	
福井県埋蔵文化財調査報告第14集	福井県教育庁埋蔵文化財センター	
名古屋市博物館だより70	名古屋市博物館	
若江遺跡第29次発掘調査報告	(財)東大阪市文化財協会	
縄文早期を考える 押型文文化の諸問題	帝塚山考古学研究所	
草戸千軒町遺跡 第37～39次発掘調査概要	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所	
柏の仏像	柏市教育委員会	
野田市埋蔵文化財調査報告書第1冊	野田市教育委員会	
調布市郷土博物館だよりNo.32	調布市郷土博物館	
第13回神奈川県遺跡調査・研究発表会 発表要旨	川崎考古学研究所	
埋文群馬No.6	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第94集	同上	
特別史跡名護屋城跡並びに陣跡	佐賀県教育委員会	
名護屋城跡発掘調査概報 山里丸発掘調査	同上	
九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第11集	同上	
老松山遺跡	同上	
礫石遺跡	同上	
まがたま通信創刊号・第2号	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
年報9 昭和63年度	同上	
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第73～83集	同上	
研究紀要第5・6号	同上	
なりたNo.46	成田山霊光館	1. 10. 18
平成元年度企画展 郷土探訪Ⅰ 飽富神社調査概報	袖ヶ浦町郷土博物館	
葦火22号	(財)大阪市文化財協会	
資料館だよりNo.11	世田谷区立郷土資料館	
第9回企画展 田川流域の原始・古代	松本市立考古博物館	
石川れきはく第13号	石川県立歴史博物館	
埋蔵文化財愛知No.18	(財)愛知県埋蔵文化財センター	
野田と貝塚	野田市郷土博物館	
国立歴史民俗博物館研究報告第21～24集	国立歴史民俗博物館	
縄文土器大観4	小学館	
北宿遺跡発掘調査報告書	浦和市遺跡調査会	1. 10. 23
三室西宿南遺跡発掘調査報告書	同上	
本太四丁目遺跡発掘調査報告書	同上	
宮前・大間木内谷・吉場遺跡発掘調査報告書	同上	
谷ノ前遺跡発掘調査報告書	同上	
北宿西遺跡発掘調査報告書	同上	
馬場小室山・松木遺跡発掘調査報告書	同上	
馬場東・馬場小室山遺跡発掘調査報告書	同上	

書名	寄贈者	受入日	
馬場北遺跡発掘調査報告書	浦和市遺跡調査会	1. 10. 23	
別所子野上遺跡発掘調査報告書 (第2次)	同 上		
帝京大学山梨文化財研究所研究報告第1集	帝京大学山梨文化財研究所	1. 10. 27	
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第92集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団		
第24回特別展 信濃の馬	長野市立博物館		
一般県道「菅沢-松山線」埋蔵文化財調査報告書 I	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター		
一般国道11号西条市バイパス埋蔵文化財調査報告書	同 上		
一般国道196号今治道路埋蔵文化財調査報告書 II	同 上		
愛宕遺跡IV	(財)北九州市教育文化事業団		
上徳力遺跡 1	同 上		
上徳力遺跡 2	同 上		
徳力土地区画整理事業関係調査報告 2	同 上		
高津尾遺跡 1 (2区の調査)	同 上		
高津尾遺跡 2 (12・19区の調査)	同 上		
隠蓑・山ノ神遺跡	同 上		
岡遺跡	同 上		
菊水町遺跡 2 (II区の調査)	同 上		
貫川遺跡 2	同 上		
香川遺跡 第3地点	同 上		
紅梅(A)遺跡 2	同 上		
研究紀要第3号	同 上		
埋蔵文化財調査室年報 5 昭和62年度	同 上		
滋賀埋文ニュース第112~114号	滋賀県埋蔵文化財センター	1. 10. 30	
上総国分寺台発掘調査概報 1983. 3 抜刷	忍澤成祝		
上総国分寺台発掘調査概要Ⅲ 1976	半田堅三		
上総国分寺台発掘調査概報 1982	同 上		
特別展 纏向石塚と3世紀の古墳	桜井市埋蔵文化財センター		
第5回特別展図録 おもちゃの歴史	大分市歴史資料館		
大分市歴史資料館ニュース7	同 上		
第3回企画展 横穴式石室の世界	栃木県しもつけ風土記の丘資料館		
九州歴史資料館収蔵資料目録 5	九州歴史資料館		
江別市西野幌12遺跡	(財)北海道埋蔵文化財センター		
深川市納内6丁目付近遺跡	同 上		
深川市国見2遺跡(II)	同 上		
深川市東広里遺跡	同 上		
美沢川流域の遺跡群Ⅻ	同 上		
今金町美利河1・2砂金採掘跡	同 上		
深川市納内3遺跡	同 上		
調査年報 1 昭和63年度	同 上		
所報吉備第7号	岡山県古代吉備文化財センター		1. 11. 8
港郷土資料館だより第15号	港区教育委員会		
千葉県立上総博物館報第39号	千葉県立上総博物館		
総南博物館報第41号	千葉県立総南博物館		
写真機の歴史と世田谷の風景	世田谷区立郷土資料館		

書名	寄贈者	受入日	
後久保遺跡	南那須町教育委員会	1. 11. 8	
鉄 人とのかわりと移り変わり	富山県埋蔵文化財センター		
保内三王山古墳群	新潟大学考古学研究室		
京都府埋蔵文化財情報第33号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター		
第8回小さな展覧会	同 上		
ひろしまの遺跡第38号	(財)広島県埋蔵文化財調査センター		
纏向石塚古墳 範囲確認調査(第4次)概報	田中新史		
第25回茨木市教育月間文化財資料館第6回テーマ展 古墳展	同 上		
馬込文士村ガイドブック	大田区立郷土博物館		
図録 根付	同 上		
わがまち博物館グラフィティ	同 上		
大田区立郷土博物館だより第21号	同 上		
博物館ノートNo.43~48	同 上		
クィーンズランド文化展 姉妹州の4万年の歴史	埼玉県立博物館		1. 11. 10
小山市立博物館紀要第2号	小山市立博物館		
房総の古墳文化	千葉県立房総風土記の丘		
房総風土記の丘だより第18号	同 上	1. 11. 13	
江戸遺跡研究会会報No.22	江戸遺跡研究会		
盛岡城跡 昭和60年度発掘調査概報	盛岡市教育委員会		
旧井上家西洋館移築復元工事報告書	豊田市教育委員会	1. 11. 15	
滋賀埋文ニュース第115号	滋賀県埋蔵文化財センター		
シンポジウム房総の古墳文化 古代集落研究の現状	千葉県立房総風土記の丘	1. 11. 17	
ふなばしの歴史と文化財	船橋市教育委員会		
船橋市民家分布調査報告第6次 夏見地区	同 上	1. 11. 22	
夏見大塚 第6次調査報告	同 上		
図説日本の古代3	中央公論社		
多摩ニュータウン遺跡 昭和62年度 第1~6分冊	(財)東京都埋蔵文化財センター		
東京都埋蔵文化財センター年報9 昭和63年度	同 上		
資料図録3	同 上		
生原・善龍寺前遺跡	箕郷町教育委員会		
海行A・B遺跡	同 上		
向日市埋蔵文化財調査報告書第26・27集	(財)向日市埋蔵文化財センター		
おおとねVol.11No.2	千葉県立大根博物館		
東京大学総合研究資料館ニュース17号	東京大学総合研究資料館		
千葉県文化財センター年報No.13・14	(財)千葉県文化財センター		
研究連絡誌第23~25号	同 上		
房総考古学ライブラリー4 弥生時代	同 上		
千葉県荒久遺跡(1)	同 上		
千葉県荒久遺跡(2)	同 上		
関宿城跡	同 上		
関宿町飯塚貝塚	同 上		
佐倉市向原遺跡	同 上		
成田市畑ヶ田地区埋蔵文化財発掘調査報告書	同 上		
千葉県浜野川神門遺跡	同 上		

書 名	寄 贈 者	受 入 日
千葉市小中台(2)遺跡・新堀込遺跡・馬場遺跡	(財)千葉県文化財センター	1. 11. 22
市原市西野遺跡・白山遺跡・村上遺跡発掘調査報告書	同 上	
国道409号道路改良事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書	同 上	
成田市林北遺跡・長山遺跡	同 上	
千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書IX	同 上	
松戸市・沼南町高柳新田所在野馬土手	同 上	
佐倉市南志津地区埋蔵文化財発掘調査報告書 1	同 上	
君津郡市文化財センター年報No.6・7	(財)君津郡市文化財センター	1. 11. 27
永吉台遺跡群	同 上	
岩井作横穴墓群	同 上	
臼井台北遺跡	同 上	
打越岱遺跡	同 上	
境遺跡 第2次調査	同 上	
星谷上古墳・畑沢遺跡 (第2次調査)	同 上	
三箇遺跡群V・VI	同 上	
蔵王砦跡	同 上	
金大考古第17号	金沢大学文学部考古学研究室	
展示図録 古代東国の武人たち	埼玉県立さきたま資料館	
白井町石造物調査報告書第4集	白井町教育委員会	
奈良国立文化財研究所年報1988	奈良国立文化財研究所	
(財)東大阪市文化財協会概報集 1988年度	(財)東大阪市文化財協会	
大畑Ⅱ遺跡	(財)印旛郡市文化財センター	
椎ノ木遺跡	同 上	
岩戸広台遺跡A地区・B地区発掘調査報告書	同 上	
久能遺跡群発掘調査報告書	同 上	
御成街道Ⅱ発掘調査報告書	同 上	
下台遺跡・尾上藤木遺跡A・B地区発掘調査報告書	同 上	
酒々井町尾上藤木遺跡D地区発掘調査報告書	同 上	
押知子の神城跡発掘調査報告書	同 上	
平賀山ノ下10号墳発掘調査報告書	同 上	
篠山新田飯仲向遺跡発掘調査報告書	同 上	
(財)印旛郡市文化財センター年報4	同 上	
名古屋市博物館だより71	名古屋市博物館	1. 12. 1
かみしき31	下総史料館	
資料館だよりVol.15No.4	沼津市歴史民俗資料館	
館藏品展図録	豊田市郷土資料館	
房谷戸遺跡Ⅰ	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
千葉市立加曽利貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集	千葉市加曽利貝塚博物館	1. 12. 7
滋賀埋文ニュース第116号	滋賀県埋蔵文化財センター	
黒笹第68号窯発掘調査報告書	三好町教育委員会	
斎宮歴史博物館だよりNo.1・2	斎宮歴史博物館	
斎宮跡発掘資料選	同 上	
師遺跡・鎌倉遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	
百人町三丁目遺跡	百人町三丁目遺跡調査会	

書名	寄贈者	受入日	
落合遺跡	落合公園遺跡調査会	1. 12. 7	
北山伏町遺跡	新宿区北山伏町遺跡調査会		
常設展示図録	新宿歴史博物館		
三栄町遺跡	新宿区教育委員会		
自證院遺跡	同上		
わらびてNo.46	岩手県立埋蔵文化財センター		
考古学雑誌第75巻第1号 抜刷	小瀬康行		
中央3号遺跡発掘調査報告書	(財)広島県埋蔵文化財調査センター		
壬生西谷遺跡	同上		
井手山古墳	同上		
郷古墓発掘調査報告書	同上		
上大縄古墳・下の割遺跡	同上		
長後林古墓群発掘調査報告書	同上		
冠遺跡群 D地点の調査	同上		
奥田・是石・鷺田・藤田	同上		
大成遺跡	同上		
加茂学園都市開発整備事業地(西高屋地区)内遺跡群IV	同上		
年報IV 昭和62年度	同上		
立命館大学文学部学芸員課程研究報告第2冊	立命館大学文学部		1. 12. 14
年報V 昭和63年度事業概要	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所		
能島遺跡	同上		
原川遺跡I	同上		
川合遺跡(遺構編)	同上		
くらしの中の木 図録	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館		
ひらかた文化財だより創刊号	(財)枚方市文化財研究調査会		
枚方市文化財年報IX 1988	同上		
長岡京市埋蔵文化財センター年報 昭和62年度	(財)長岡京市埋蔵文化財センター		
長岡京市埋蔵文化財調査報告書第4集	同上		
長岡京市文化財調査報告書第22冊	長岡京市教育委員会	1. 12. 20	
大阪市の文化財 1989	大阪市教育委員会		
昭和62年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	同上		
福岡市埋蔵文化財センター年報第8号 昭和63年度	福岡市埋蔵文化財センター		
久留米市文化財調査報告書第58集	久留米市教育委員会		
市川市出土の瓦I	市立市川考古博物館		
ほりのうちNo.12	同上		
市立市川考古博物館年報 昭和62年度	同上		
向野遺跡群 埋蔵文化財分布調査報告書	(財)勝田市文化振興公社		
武田II	同上		
図録 玉電	世田谷区立郷土資料館	1. 12. 27	
世田谷の地名(下)	同上		
八寸大道上遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団		
昭和63年度実施報告遺跡保存方法の検討	文化庁		
鹿頭上の出遺跡	富米町教育委員会		
博物館だよりNo.7	宮市博物館		

書 名	寄 贈 者	受 入 日	
一宮市博物館年報(1)	一宮市博物館	1. 12. 27	
平成元年度秋季特別展 一宮の名宝(Ⅲ)	同 上		
新四号国道と遺跡	(財)栃木県文化振興事業団		
二ノ谷遺跡	同 上		
栃木県文化振興事業団年報 昭和62年度・昭和63年度	同 上		
自治医科大学周辺地区 昭和62年度埋蔵文化財発掘調査概報・昭和63年度埋蔵文化財発掘調査概報	同 上		
一般国道4号線(新4号国道)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の経過(昭和62年度)・(昭和63年度)	同 上		
漆町遺跡Ⅱ	石川県立埋蔵文化財センター		
金沢市米泉遺跡	同 上		
水白モンシヨ遺跡	同 上		
寺家遺跡発掘調査報告Ⅱ	同 上		
犀川鉄橋遺跡Ⅱ	同 上		
末松遺跡	同 上		
佐々木アサバタケ遺跡Ⅱ	同 上		
拓影第27～30号	同 上		
満久谷遺跡	水野正好	2. 1. 5	
ひろしまの遺跡第39号	(財)広島県埋蔵文化財調査センター		
葦火23号	(財)大阪市文化財協会		
(財)向日市埋蔵文化財センター年報Ⅰ	(財)向日市埋蔵文化財センター		
文化財教室シリーズ [106] ～ [109]	(財)滋賀県文化財保護協会		
滋賀文化財だよりNo.139	同 上		
鴨田遺跡発掘調査報告書Ⅰ	同 上		
長寺(横枕古墳群)遺跡	同 上		
武蔵国府の調査XⅦ	府中市教育委員会		
本宿横穴群確認調査報告書	(財)山武郡南部地区文化財センター		2. 1. 11
岩崎横穴群	同 上		
宮台遺跡	同 上		
(財)山武郡南部地区文化財センター年報No.4	同 上		
埋蔵文化財愛知No.19	(財)愛知県埋蔵文化財センター		
神崎町南部遺跡群発掘調査報告書	神崎町教育委員会		
中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書8	(財)長野県埋蔵文化財センター		
七地水田遺跡	熊本県教育委員会	2. 1. 20	
山田城跡	同 上		
天道ヶ尾遺跡(Ⅰ)	同 上		
北上原古墳群・瀬戸口横穴墓群	同 上		
六地藏遺跡Ⅰ	同 上		
仕山遺跡	同 上		
とまこまい埋文だよりNo.18	苫小牧市埋蔵文化財調査センター		
静川37遺跡発掘調査(第1次)概要報告書	同 上		
早稲田大学東伏見総合グラウンド遺跡A地点埋蔵文化財試掘調査報告書	早稲田大学図書館		
三島市文化財年報第1号	三島市教育委員会		
初音ヶ原遺跡群Ⅲ	同 上		
史跡山中城跡Ⅵ	同 上		
安久遺跡	同 上		

書名	寄贈者	受入日
神奈川県立埋蔵文化財センター年報8	神奈川県立埋蔵文化財センター	2. 1. 20
草山遺跡Ⅱ	同上	
砂田台遺跡Ⅰ	同上	
埋文とやま第29号	富山県埋蔵文化財センター	
滋賀埋文ニュース第117号	滋賀県埋蔵文化財センター	
江戸遺跡研究会会報No.23	江戸遺跡研究会	
久々利奥磯山4号窯	田中新史	
昭和62年度実施報告都市周辺の軽石堆積地における遺跡保存方法の検討	文化庁	
昭和63年度実施報告遺跡保存方法の検討	同上	
資料館だより第2号	各務原市歴史民俗資料館	2. 1. 23
神明久保遺跡 第3地区	神明久保遺跡調査団	2. 1. 26
滋賀文化財だよりNo.140	(財)滋賀県文化財保護協会	
服部遺跡発掘調査報告書Ⅲ	同上	
中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書7	(財)長野県埋蔵文化財センター	
総南博物館報第42号	千葉県立総南博物館	2. 1. 29
稲荷山第1号古墳	縄文文化研究会	
秦野市No.143遺跡	同上	
第3回特別展図録 常陸のはにわ	土浦市立博物館	
京都府埋蔵文化財情報第34号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	2. 2. 3
資料館だよりVol.15No.5	沼津市歴史民俗資料館	2. 2. 6
東早淵遺跡	練馬区遺跡調査会	
東早淵遺跡 第2地点	同上	
池淵遺跡 第4次調査	同上	
弁天池低湿地遺跡の調査	同上	
小竹東遺跡	同上	
おとおねVol.11No.3	千葉県立大利根博物館	2. 2. 8
文化財学報第6集	奈良大学文学部考古学研究室	2. 2. 14
滋賀埋文ニュース第118号	滋賀県埋蔵文化財センター	
名古屋市博物館だより72	名古屋市博物館	
京都府遺跡調査概報第35・36冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	
池子遺跡群調査だより1～4	神奈川県立埋蔵文化財センター	2. 2. 15
浦和市立郷土博物館館報第35号	浦和市立郷土博物館	2. 2. 20
博物館だよりNo.8	一宮市博物館	
天神山遺跡発掘調査報告書	鳥取県教育委員会	
三輪南遺跡群発掘調査報告書	三輪南地区遺跡群発掘調査会	
秋田県文化財調査報告書第178・184・186集	秋田県埋蔵文化財センター	
秋田県埋蔵文化財センター年報7 昭和63年度	同上	
秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第4号	同上	
なりたNo.47	成田山霊光館	2. 2. 23
図録 成田山ゆかりの人々Ⅱ	同上	
調布市郷土博物館だよりNo.33	調布市郷土博物館	
ひらかた文化財だより第2号	(財)枚方市文化財研究調査会	
図録 珠洲の名陶	珠洲市立珠洲焼資料館	2. 2. 27
松山遺跡	別府大学付属博物館	

書 名	寄 贈 者	受 入 日
貝と水の生物 千葉県文化財センター年報No.13・14 研究連絡誌第26号 千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨 平成元年度 長野市立博物館だより第15号 葦火24号 王子保黛跡群Ⅱ 武生市埋蔵文化財詳細分布調査報告書Ⅰ 湊遺跡 89-2区調査の報告 日根野遺跡 88-6区の調査 昭和63年度泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅸ 鬼虎川遺跡調査概要Ⅰ 遺物編 木製品 神並古墳群遺跡第3次発掘調査報告 宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第14集 保渡田遺跡群 第Ⅶ次発掘調査報告(1) 西浦北遺跡 西国分Ⅰ遺跡 元興寺文化財研究所通信No.33 資料館だより第3号 鳥取埋文ニュースNo.25 浜松市博物館だよりVol.8-2No.27 浜松市博物館館報Ⅱ 真光寺・広袴遺跡群Ⅲ 滋賀埋文ニュース第119号 中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書9 都田地区発掘調査報告書下巻	田所 真 (財)千葉県文化財センター 同 上 千葉県文化財法人連絡協議会 長野市立博物館 (財)大阪市文化財協会 武生市教育委員会 同 上 泉佐野市教育委員会 同 上 同 上 (財)東大阪市文化財協会 同 上 宇治市教育委員会 群馬町教育委員会 同 上 同 上 (財)元興寺文化財研究所 各務原市歴史民俗資料館 鳥取県埋蔵文化財センター 浜松市博物館 同 上 鶴川第二地区遺跡調査会 滋賀県埋蔵文化財センター (財)長野県埋蔵文化財センター (財)浜松市文化協会	2. 3. 2 2. 3. 3 2. 3. 7 2. 3. 9 2. 3. 13 2. 3. 16

市原市文化財センター年報

(平成元年度)

平成 6 年 9 月 30 日 発行

発 行 財団法人 市原市文化財センター
〒290 千葉県市原市能満1489番地
TEL 0436(41)9 0 0 0

印 刷 三 陽 工 業 株 式 会 社
〒290 千葉県市原市五井5510の1
TEL 0436(22)4 3 4 8